



平成29年度

**真名川ダム・九頭竜ダム
水源地域ビジョン推進委員会**

平成30年3月

1.水源地域ビジョンとは	1
1. 水源地域ビジョンとは	2
2. 水源地域ビジョンのイメージ	3
3. 2つのダムの水源地域ビジョンを統合	4
4. 行動計画の内訳	6

2.平成29年度 水源地域のトピックス	8
1. 中部縦貫自動車道永平寺大野道路全線開通	9
2. 中部縦貫自動車道大野油坂道路	10
3. 重点道の駅「(仮称)結の故郷」整備	11
4. 福井しあわせ元気国体 プレ大会	12
5. 化石発掘体験センター「『HOROSSA!』(ホロッサ!)」オープン	12

3.平成29年度の水源地域ビジョンの取り組み 13

1) 大野市の取り組み 13

1. 越前おおの湧水文化再生計画	14	水	
2. 水への恩返し Carrying Water Project	16	水	交流
3. 大野市森・水保全条例	19	森林	水
4. 越前おおのエコフィールド	20	森林	交流
5. カヌーを使った水辺の安全教室	25	森林	交流
6. 化石発掘体験	26	森林	交流
7. 真名川河川敷サイクリングコース整備	27		交流
8. 九頭竜新緑まつり・紅葉まつり	29	森林	交流
9. 大野市とモンベルの協定について	32		交流

2) 活動団体・関係機関の取り組み 35

1. 九頭龍川クリーンアップ(真名川君が代橋、九頭竜川上流部)	36		交流
2. ノーム自然環境教育事務所(奥越前まんまるサイト)	37	森林	水 交流
3. 「水源地の森づくり」第10回植樹会	39	森林	水 交流

3) 国土交通省の取り組み 40

1. 九頭竜ダム湖の特定外来種コクチバス捕獲・駆除	水	交流	41	
2. 九頭竜川上流 水生生物調査	水	交流	42	
3. 森と湖に親しむ旬間行事	森林	水	交流	43
4. 「森と湖に親しむ旬間」協賛行事		交流	49	
5. 平成29年度 「日帰り留学」	森林	水	交流	50
6. 九頭竜新緑まつり・紅葉まつりでのパネル展示	森林		交流	52
7. 防災パネル展		水	交流	54
8. ダム湖周辺の紅葉情報提供	森林		交流	56
9. 九頭竜ダム展示室			交流	58
10. ダムカードの配布			交流	59
11. 流木の有効活用	森林		交流	60
12. 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンHP更新状況	森林	水	交流	61
13. 九頭竜ダムダムカード更新			交流	62

4.水源地域ビジョン意見交換会 64

1. 意見交換会の概要			65
2. 意見交換会のまとめ			66
3. 真名川ダム農産物貯蔵			71

5.これから水源地域ビジョンについて 72

1) 地域振興に向けた今後の可能性・発展性 72

1. 今後の進め方（枠組み）			74
2. 取り組み案			75

2) 九頭竜ダム管理開始50周年アニバーサリー 79

1. 九頭竜ダム管理開始50周年記念企画			80
----------------------	--	--	----

1. 水源地域ビジョンとは

① 水源地域ビジョンとは

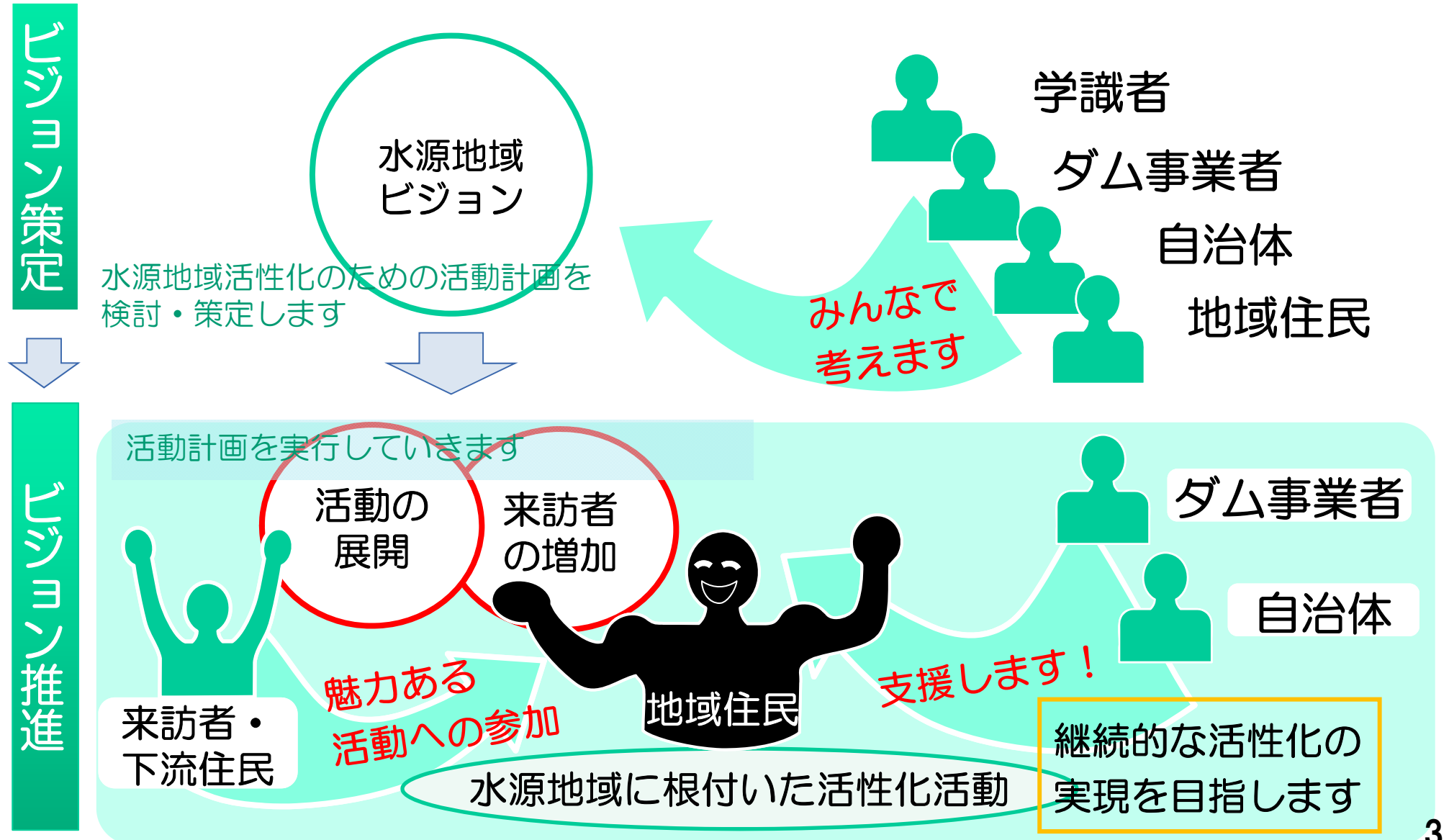
○ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な 活性化を図るための行動計画

- ・ダム湖周辺の豊かな水辺と緑を活かした公園整備等地域の特色とダムを活かした連携によるハード整備・ソフト対策を行う
- ・人づくり・啓発活動、相談窓口の設置、情報発信等の実施

○流域内の連携・交流の促進

- ・水を軸にした地域間交流、地場産業の振興、豊かな自然・文化の提供等を行う
- ・流域住民、関係行政機関等と連携して、総合的な地域支援を実施

② 水源地域ビジョンのイメージ



③ 2つのダムの水源地域ビジョンを統合

真名川ダム水源地域ビジョン

大野の水文化の再生を目指し、現代の発達した社会経済の中に、昭和30年代の大野の水情緒を実現する「水のグランドデザイン」を描くものです。この「水のグランドデザイン」は、大野の山や川を「里山」や「身近な自然」として再生し、この再生の段階を地域活性化のテーマとするものです。

九頭竜ダム水源地域ビジョン

九頭竜ダム・九頭竜湖及びそれを取り巻く豊かな自然を保全し、活かしながら進める流域圏活性化のためのビジョンです。その基本は、源流部の清流とその水を育む森林を守り、豊かな自然に囲まれた美しい山村の中で人々が生き生きと暮らす社会を次世代に継承していくことです。

2つのダムのビジョンの施策を、『森林』『水』『交流』の3つの柱のもとに統合しました。

水源林の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流などの様々な施策を実行することにより、水源地域の持続的な活性化をめざします。

③ 2つのダムの水源地域ビジョンを統合

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン

〔基本理念:真名川ダム〕

「奥越の山々に抱かれた名水のまち
大野の水のランドデザインを目指して」

〔基本理念:九頭竜ダム〕

「美しい水・森・心と出会ういやしの里づくり」

〔ビジョンの施策〕

<森林>

- 森林の保全・育成
- 森林資源の活用

- ◆水源林の保全
- ◆林業ボランティア
- ◆雑木林（里山）の活用
- ◆木工・ログハウス工房づくり
- ◆自然体験の拠点づくり

<水>

- 健全な水環境整備
- 水環境の啓発
- 利水運用の工夫

- ◆水路網や清水の復元
- ◆水を生かした公園づくり
- ◆地下水位のモニタリング
- ◆水文化や愛護活動
- ◆親和性の高い水生生物の保全
- ◆家庭排水対策
- ◆農業用水管理との連携
- ◆河川の維持流量等の確保の研究
- ◆地下水位保全を図る貯水池運用の研究

<交流>

- 人材・組織の育成
- 水辺環境の活用
- 広域交流の促進

- ◆市民参加活動の拡充
- ◆将来を担う人づくり
- ◆水源地域のファンづくり
- ◆カヌー体験ゾーン形成
- ◆フィッシングゾーン形成
- ◆親水エリアのネットワーク
- ◆湖畔めぐりルートづくり
- ◆中島公園等の充実
- ◆水辺の利用のルールづくり
- ◆ブランドイメージづくり
- ◆地域間交流の促進
- ◆情報ネットワークづくり

④ 行動計画の内訳(1)



「水源地域ビジョン」に関わる取り組みは以下のとおりです

分類	活動名	主な活動内容
環境 保全	九頭龍川クリーンアップ大作戦	真名川グラウンド等で清掃活動を実施
	越前おおの湧水文化再生計画	湧水文化を後世へ引き継ぐことを目標に、水田湛水や地下水計測・啓発等を実施
	水への恩返し(Carrying Water Project)	「水への感謝の思い」を「水への恩返し」という行動で表す。 「水」を基幹とする新たな産業創出や人材育成、東ティモールへの支援等を実施
	大野市森・水保全条例	水源地域内の土地の所有権移転等に関する条例
	越前おおのエコフィールド	ドングリなどの苗木を育てる森林づくり活動や、自然環境教育、自然体験などを実施

④ 行動計画の内訳(2)



分類	活動名	主な活動内容
交流	平成29年度「日帰り留学」	子供たち(親子)の短期留学による交流
	カヌーを使った水辺の安全教室	プールやダム湖でカヌーを使った水辺の安全教室や、カヌー出前講座を実施
	化石発掘体験	恐竜やアンモナイトなどの化石発掘体験を開催
	大野市とモンベルの協定締結	地方創生に向けた相互連携・協力に関する協定を締結
	真名川河川敷サイクリングコース整備	「大野市自転車を活用したまちづくり計画」に基づき、サイクリングコース等を整備
	<森と湖に親しむ旬間行事> もりみずカップ少年サッカー大会	流域の子供たちによるサッカー大会
	NPO法人九頭竜自然楽校	九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで木工アート教室を開催
	ノーム自然環境教育事務所	九頭竜新緑まつりでのカヌー体験等を実施
啓発活動	<森と湖に親しむ旬間行事> 真名川ダム・九頭竜ダム等の見学会	ダムの見学会 参加している各機関による啓発活動
	九頭竜新緑まつり・紅葉まつりでのパネル展示 防災パネル展	防災等に関するパネル展示 流木等の配布
	流木の有効活用	流木や流木から作った堆肥の配布
	九頭竜ダム展示室	防災等の啓発やダムの役割の広報
	ダムカードの配布	ダムカードの配布
	ダム湖周辺の紅葉情報提供	HP、ツイッターによる紅葉情報の提供
	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンHP更新	HPの更新

2. 平成29年度 水源地域のトピックス

① 中部縦貫自動車道永平寺大野道路全線開通

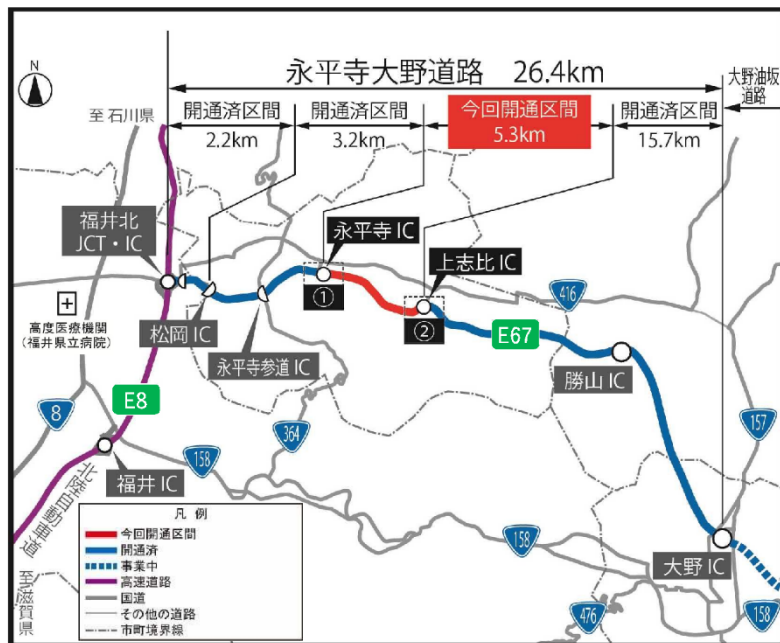
概要

中部縦貫自動車道 永平寺IC(インターチェンジ)～上志比IC間の延長約5.3kmが平成29年7月8日に開通しました。今回の開通により、中部縦貫道を構成する永平寺大野道路(福井北JCT・IC～大野IC、延長26.4km)が全線開通しました。

永平寺大野道路は北陸自動車道～東海北陸自動車道～中央自動車道を結ぶ中部縦貫道のうち、北陸道とのJCTとなる福井北JCT・ICから福井県大野市の大野ICまでを結ぶ区間で、1998年度の工事着手から20年弱を経て全線開通することになりました。

最後の開通区間となった永平寺IC～上志比IC間は延長約5.3km、2車線での開通となります。永平寺ICは国道364号、上志比ICは国道416号にそれぞれ接続しています。通行は無料。

【路線概要図】



※出典:国土交通省近畿地方整備局報道資料



※出典:国土交通省福井河川国道事務所

② 中部縦貫自動車道大野油坂道路

概 要

中部縦貫自動車道は、長野県松本市を起点に飛騨、美濃、奥越地方の山岳を通り福井市に至る自動車専用道路です。中部・関東地方と北陸地方を結び、広域交通の円滑化を図るとともに、文化・観光資源を活かした地域振興や産業経済の発展を図るものとしています。

中部縦貫自動車道の大野油坂道路も工事が進められており、平成34年度(2022年度)の北陸新幹線開業と合わせた全線開通が地元から要望されています。

現在、工事最盛期を迎える大野東・和泉区間(14km)は、険しい山岳地帯で構造物が多く、新しい技術を取り入れた橋梁・改良・トンネル工事を、～魅せる！現場～として御覧頂けます。



大野油坂道路荒島トンネル付近の工事の状況



大野油坂道路荒島トンネル現場見学会の様子

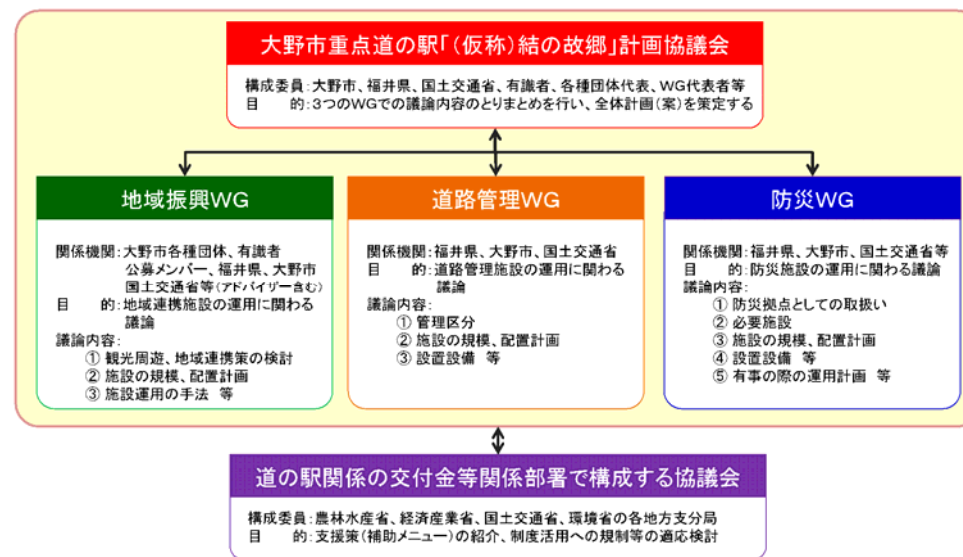
③ 重点道の駅「(仮称)結の故郷」整備

概要

重点道の駅「(仮称)結の故郷」は、中部縦貫自動車道大野東ICの真正面に位置し、越前大野城や化石等の地域資源の情報を発信することで、ここを出発点として市内の回遊を促す「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核として整備が進められています。

朝市等の地域情報や地域の観光案内、化石発掘等の体験や四季を通じた山歩き情報等を総合的に提供し、シャトルバス等での市内への誘客、交流人口の拡大を図ることで活性化につなげます。

設計段階から指定管理予定者が持つノウハウ・経営能力等の活用を図り、地域振興に寄与し、整備コスト・維持管理コストを削減できる施設の設計、工事監理及び管理運営の準備を一体的に実施し、この道の駅を通じて大野市全体をプロデュースできる指定管理予定者の候補者を公募型プロポーザル形式で選定しました。



※出典:大野市資料(平成27年1月)

大野市資料(平成28年6月)

④ 福井しあわせ元気国体 プレ大会

概要

2018年には福井しあわせ元気国体と福井しあわせ元気大会が開催されます。

大野市では、カヌー(スラローム、ワイルドウォーター)や自転車(ロード)、相撲が開催される予定で、2017年にはプレ大会が開催されました。

カヌー競技は、九頭竜川特設カヌー会場で4/29、30に開催されました。また、自転車(ロードレース)は8/26に開催されました。



九頭竜川特設カヌー会場でのプレ大会



自転車(ロードレース)プレ大会の様子

⑤ 化石発掘体験センター「『HOROSSA!』(ホロツサ!)」オープン

概要

大野市和泉地区に平成29年10月28日に、恐竜をテーマにした化石発掘体験センターがオープンしました。

※詳細は後述「3.1)大野市の取り組み⑥. 発掘体験」を参照

3. 平成29年度の水源地域ビジョンの 取り組み

1) 大野市の取り組み

①. 越前おおの湧水文化再生計画



概要

古くからある湧水の再生や本市特有の湧水文化を後世へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。本計画に基づき、各施策に取り組んだ。

大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会

各施策の推進状況の報告や協議などを行い、関係機関や団体の連携強化を図る。

現在、「越前おおの湧水文化再生計画」の改訂作業を行っている。

- ・(第2回)平成29年7月25日開催
- ・(第3回)平成30年3月26日開催予定

参加機関・団体

岐阜経済大学／京都大学／総合地球環境学研究所／筑波大学／大阪府立大学／国土交通省国土技術政策総合研究所／国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所・九頭竜川ダム統合管理事務所／農林水産省北陸農政局／林野庁福井森林管理署／福井県安全環境部環境政策課・農林水産部農林振興課、森づくり課・土木部河川課、奥越農林総合事務所、奥越土木事務所／市区長連合会／市地下水対策審議会／真名川土地改良区連合／北陸電力(株)／JAテラル越前／九頭竜森林組合／大野市

水田湛水事業

- 【面積】 29.2ha(H28年 29.8ha)
- 【期間】 平成29年10月1日～
平成30年2月28日(5か月間)
- 【場所】 木本原地区(阿難祖地頭方 他地係)



地下水の水位観測・啓発など

【モニタリング】

地下水水位観測 29か所32井戸
湧水量観測 中野清水、義景清水 2か所
地下水質検査 6月8日・9日検査 42か所

【啓 発】

紅葉まつりなどの各種イベントへの出展
市報やチラシによる地下水・節水の啓発
越前おおの名水出前講座の開催
越前おおの環境塾「川の生き物を探そう！」の開催

【注意報・警報】

地下水水位低下時に地下水注意報・警報を発令

地下水注意報発令：平成28年12月7日～19日(13日間)

※平成29年度は発令なし

【地下水保全基金】

市民などからの寄附金を積み立て、地下水保全対策に活用
地下水保全活動助成事業・貯留施設整備事業に活用



■ 春日公園観測井表示板



■ 名水出前講座の風景



■ 環境塾の風景



②. 水への恩返し Carrying Water Project

概要

水は、大野市にとって、歴史や文化、伝統を連綿と支えてきた貴重な財産です。その水に着目し、「水への感謝の思い」を「水への恩返しCarrying Water Project」という行動として表すことで、市民が地域に「誇りと自信」を持つとともに、新たな産業基盤の創出や人材育成、地域製品の競争力強化を図り、まちの活性化を目指す、中長期的な人口減少対策に取り組めます。

人口減少対策への流れ

Carrying Water Project によって大野市が目指す長期的ビジョン



GOAL

① 定住・人口流入

② 産業創出・人材輩出

水に関わる環境産業誘致や施策実現による顧客創出・地域活性

③ 基盤整備

「水」を基幹とする産業創出や活性化施策実現に向けたブランドづくり、人材育成等

④ 市民意識（誇りと自信）醸成

目に見える活動から生まれる市民との対話と意識喚起 / 理解促進

⑤ 具体的な活動 Carrying Water Project

人口減少対策を目的として

大野市の重要資源であり

アイデンティティである

「水」にフォーカスし

市民や関係者に

「水」に関する意識を高めてもらい

一致団結・協力・共創しながら

ゆくゆくは水関連産業誘致 / 育成による

雇用創出や

地域活性化を目指す

PR活動



■水をたべるレストラン イベント
一夜限りのレストラン「打波古民家の夜」を開催
平成29年8月1日



■東ティモール 給水施設完成地 視察
平成29年9月23日～10月1日



■水のがっこう 副読本を発行
平成29年7月4日



平成29年1月～
安全な水源の確保に苦しむ国
東ティモール民主共和国
へ支援開始

PR活動



■名水マラソンで走った距離に応じた寄付活動 平成29年5月28日



■エゴレモス氏を招待し「第3回大野の水と未来を語る集い」を開催 平成29年5月14日



■日経新聞へ広告を掲載 平成29年8月1日
日経広告賞 環境部門最優秀賞を受賞

一般財団法人水への恩返し財団

設立日 平成28年1月4日

代表理事 岡田高大

目的 大野市民の水への感謝の思いを醸成し、大野市の恵まれた水環境を後世に残し、国内外の人々に発信するとともに、世界の安全な水が供給されていない地域を支援する事業

- (1) 水環境の保全と改善に寄与する事業
- (2) 水への感謝の思いを醸成する事業
- (3) 安全な水が供給されていない地域を支援する事業



③. 大野市森・水保全条例

概要

水源地域の保全に関し、市、市民、土地所有者、施設設置者の責務を明らかにするとともに、水源地域内の土地の所有権の移転等及び工作物の設置について、必要なことを定めることにより、水源地域の機能の維持に寄与することを目的として策定。

届出対象地域（水源地域）

市内全域の登記地目又は現況地目が、山林又は保安林となる地域

届出について

■ 土地売買等の契約を行う場合

土地所有者は、土地売買等の契約を締結しようとする日の30日前までに、市長への届出が必要となります。（1契約が1,000㎡以上のもの）

■ 対象工作物の設置を行う場合

水源地域内に水質を汚染する又は水量に影響を及ぼすおそれのある営利を目的とした事業に係る施設を設置しようとする場合は設置しようとする日の30日前までに、市長への届出を行うとともに、協議が必要になります。



届出件数（平成30年1月末現在） 土地売買等の契約 22件

④. 越前おおのエコフィールド



概要

【活動概要】参加団体・企業や地域の方と一緒に、ドングリなどの苗木を育てる森林(もり)づくり活動や、自然環境教育、自然体験などの取り組みを行う。

【目的】福井営林署跡地(エコフィールド)においてドングリなどの苗木を育成し、森づくり活動に活用することにより、水源涵養、自然災害の抑制、二酸化炭素の削減等、公益的機能を持つ大野市の広大な森林を守り育てる一助にするとともに、緑化活動の啓発、自然環境教育及び自然体験等の環境保全活動を行うことを目的としている。

【管理運営】一般財団法人 越前おおの農林楽舎へ委託

【イベント運営】一般財団法人水への恩返し財団へ委託

越前おおのエコフィールド管理・運営協議会参加企業等(32団体)

NTT西日本福井支店/九頭竜森林組合/福井新聞社/福井放送/
北陸電力(株)福井支店/越前信用金庫/大野鉄工金属協同組合/大野市消防団/
越前おおの森づくりネットワーク/北陸銀行大野支店/中日本ハイウェイ・エンジニアリング
名古屋/タニコーテック/越前大野駅/大野市内郵便局/日本たばこ産業(株)福井
営業所/大野商工会議所/森永乳業(株)北陸支店福井営業所/J-POWER
グループ九頭竜/福井銀行大野支店/福邦銀行大野支店/ハニー新鮮館/
九頭竜川ダム統管理事務所/大野青年会議所/福井県奥越農林総合事務所/
福井県奥越土木事務所/ブルーシー・アンド・グリーンランド財団/住友林業(株)
住宅事業本部福井支店/福井グリーンパワー/大野市教育委員会/大野市/
一般財団法人越前おおの農林楽舎/一般財団法人水への恩返し財団



活動状況

【ドンダリの里親事業】

期 間：4月下旬～

参加者：市内小学2年生を中心に213人(市内10小学校※市内2複式学級校含む)



■ 森林のはたらきについて



■ ドンダリ種まき



■ 水やりなどの世話

【ひまわりの播種】

播種日：6月17日(土) 約4,000㎡に播種

参加者：管理・運営協議会(NTT西日本福井支店、九頭竜森林組合、株式会社福井新聞社、福井放送株式会社、北陸電力株式会社福井支店等 27名)



活動状況

【森づくりイベント（平家平植樹区域）林床整備】

播種日：7月16日（土）

参加者：越前おおのエコフィールド管理・運営協議会委員等27名



平家平のどんぐり苗植樹区域の
下草刈り、枝等の除去、補助杭
の打ち直し等を実施した。
（苗木の保育管理）



活動状況

【コスモスの播種】

播種日：7月22日（土）

参加者：管理・運営協議会(越前信用金庫、大野鉄工金属協同組合、大野市消防団、越前おおの森づくりネットワーク、株式会社北陸銀行大野支店等) 26名



【ひまわりの開花】

開花日：8月10日（木）

約25,000本のヒマワリが開花 8月10日から開花約2週間見ごろ



2017.08.21 ヒマワリ1.



2017.08.21 ヒマワリ4.



2017.08.21 ヒマワリ8.

活動状況

【どんぐりの森づくり：どんぐり苗木越冬作業、どんぐり拾い】

日付：平成29年10月9日(月・祝)

参加者：越前おおのエコフィールド管理・運営協議会参加企業等 約120人

■どんぐり苗木越冬作業(平家平)



■どんぐり拾い(秋生)



■どんぐり苗木越冬作業(エコフィールド)



⑤. カヌーを使った水辺の安全教室



概要

市内の小学生等を対象に、プールやダム湖でカヌーを使った水辺の安全教室や、カヌー出前講座等を行った。

【実施日】

平成29年7月11日(火)～7月28日(金)

計15回

【会場】

- ・九頭竜湖(下半原)・B&G海洋センタープール
- ・市内小学校プール

【主催】

大野市教育委員会

【内容】

着衣泳、ライフジャケット浮遊体験、
小学生親子カヌー体験、カヤックの操艇など

【参加者】

延べ249名

【指導】

福井県カヌー協会・生涯学習課スポーツ振興室



■ライフジャケット浮遊



■小学生親子カヌー体験



■ダム湖での操艇



■カナディアンカヌー操艇



■カヌー出前講座



⑥. 化石発掘体験



概要

交流人口の増加と地域の活性化を目的に、九頭竜川上流域に位置する和泉地区の地層から産出される恐竜やアンモナイト、貝類、植物などの化石を活用して、化石発掘体験を開催。

4月29日から10月1日までは仮設テントにおいて実施し、10月28日からは鉄骨平屋建ての大野市化石発掘体験センターを新築し、オープンしている。

【会場】 大野市化石発掘体験センターHOROSSA! 大野市角野14-3 九頭竜国民休養地内

**【実施日】 仮設テント:平成29年4月29日～10月1日のうち、土・日・祝日、GW・夏休み期間の毎日
HOROSSA!:平成29年10月28日～平成30年3月31日(休館日:月曜日・祝日の翌日)
※12月1日～3月31日は団体のみ受付**

**【センター】 大野市化石発掘体験センター HOROSSA!(ホロツサ) 鉄骨平屋建て1,000㎡
古生代(約4億4000万年前～2億5000万年前)から中生代(約1億6600万年前～1億3000万年前)の地層の岩石を使って、恐竜の歯、アンモナイト、貝、植物などの多様な種類の化石を、「白亜紀恐竜の森ゾーン」、「ジュラ紀アンモナイトの海ゾーン」、「古生代サンゴの海ゾーン」からなる六つのゾーンで発掘することができ、一度に最大200人が体験できます。**

【主催】 大野市、NPO法人九頭竜化石研究会

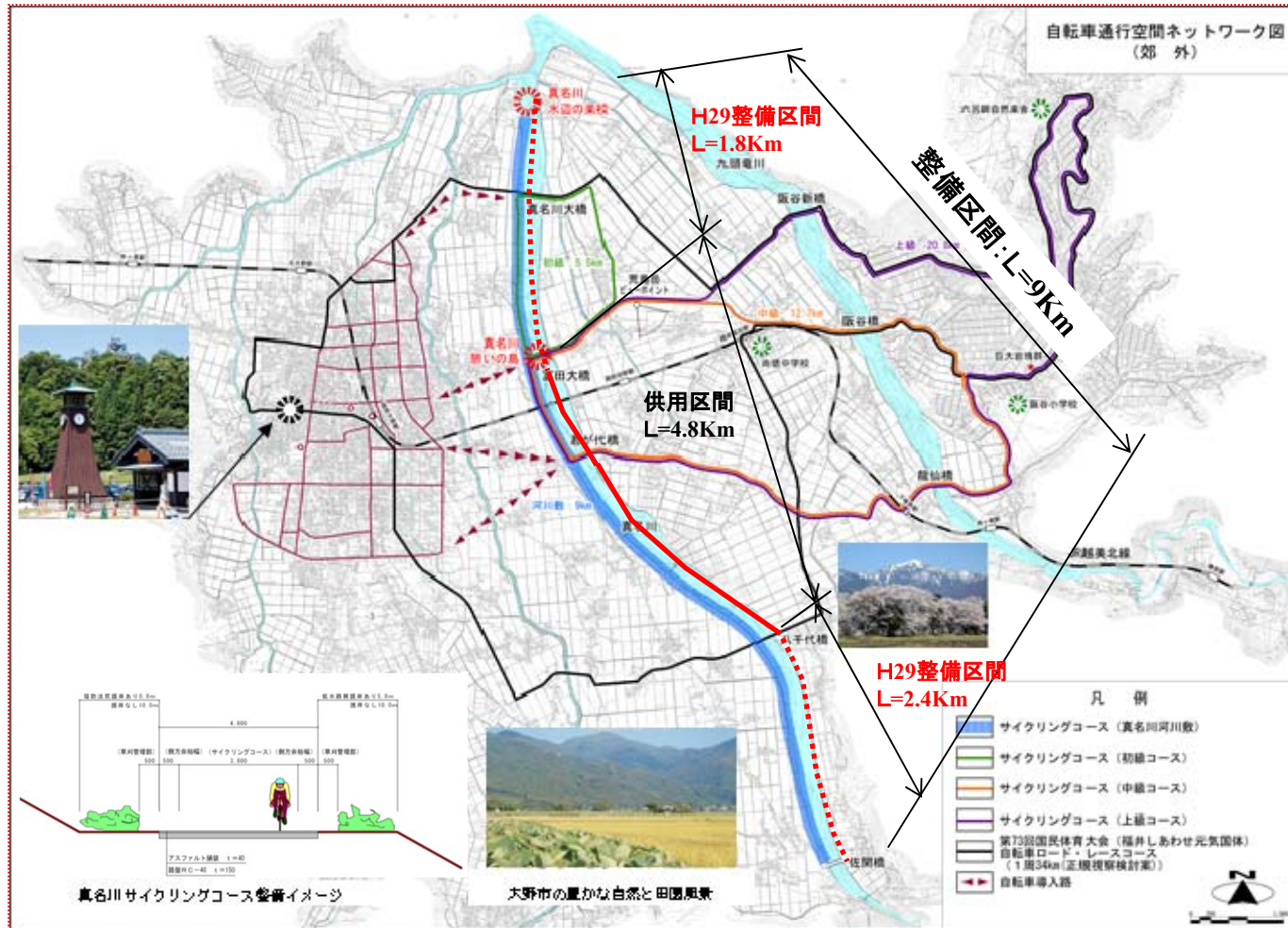
【入込み人数】 のべ3,295人



⑦. 真名川河川敷サイクリングコース整備

概要

「大野市自転車を活用したまちづくり計画」に基づき、平成26年度から、真名川左岸河川敷にサイクリングコースや駐車場等周辺施設整備を進めてきた。平成29年度は、八千代橋上流と富田大橋下流の堤防部分の4.2kmの整備を実施する。真名川水辺の楽校を起点に佐開橋を終点とする、全長約9kmのサイクリングコースが今年度、完成する予定。



⑦. 真名川河川敷サイクリングコース整備

計 画

道路を利用するサイクリングコースと異なり、自動車の通行を気にすることなく走ることができ、水辺のせせらぎと柔らかな川風を体にかけて、遠くに日本百名山の一つ「荒島岳」を眺めるなど自然を体感できる魅力あるコースを目指す。

主な施設として、君ヶ代橋上流部には、真名川からの流水を引き込む小河川と親水空間を配置し、子供たちが安心して水遊びを体験できる空間の創出。



⑧. 九頭竜新緑まつり・紅葉まつり

概要

大野市内で生産される農林水産物や特産品、旬の味覚などを提供する「食の市場」と体験型・参加型のイベントを実施することにより、文化・工芸の継承を促し、交流人口の増加と地域の活性化を図る事を目的に、毎年、春に新緑まつり、秋に紅葉まつりを開催している。

【主催】大野市/九頭竜まつり実行委員会

【共催】(一社)大野市観光協会/福井新聞社

【後援】(公社)福井県観光連盟/
JR西日本福井地域鉄道部/
NHK福井放送局/
FBC福井放送/
福井テレビ/
FM福井

【会場】九頭竜国民休養地
(大野市角野)



第38回紅葉まつりポスター

第31回新緑まつりポスター

第31回九頭竜新緑まつり

【日 時】平成29年5月20日(土)・21日(日)

【内 容】 ■新緑ステージ、新緑市場(特産品の販売)、ふるまい大鍋、木工工作コーナー
■カヌー体験、ツリークライミング体験、九頭竜ダム長野発電所見学ツアーなど

【入込み人数】25,500人

【参加団体】奥越農林総合事務所、ノーム自然環境教育事務所、電源開発株式会社九頭竜電力所



■新緑ステージ



■カヌー体験



■木工工作コーナー



■ふるまい大鍋



■ツリークライミング体験



■トロッコ列車乗車体験

第38回九頭竜紅葉まつり

【日 時】平成29年10月28日(土)・29日(日)

【内 容】 ■紅葉ステージ、紅葉市場(飲食広場、特産品の販売)、ふるまい大鍋、大道芸講演
■木工工作コーナー、化石発掘体験、九頭竜ダム長野発電所見学ツアーなど

【入込み人数】36,000人

【参加団体】奥越農林総合事務所、電源開発株式会社九頭竜電力所



■紅葉ステージ



■紅葉市場



■木工工作コーナー



■ふるまい大鍋



■九頭竜ダム歴史パネル展示コーナー



■化石発掘体験

⑨. 大野市とモンベルの協定について

地方創生に向けた相互連携・協力に関する協定の推進

大野市は(株)モンベルと「地方創生に向けた相互連携・協力に関する協定書」を平成29年2月に調印した。

平成29年度は、「こどもアグリマイスター」として「越前おおの農林楽舎」が主催し、(株)モンベルが協賛してお米や野菜の植え付け～収穫～食べるまでの行程を体験した。

4月に行われたカヌー競技のプレ大会と、8月の自転車競技のプレ大会において、(株)モンベルが協賛して入賞者への副賞を提供した。

【今後の活動として】

エコツーリズム、自然環境活動のほか、文化・歴史等を観光の対象としながら、環境の保全性と持続可能性を考慮する旅行、レクリエーションの在り方を検討していく。

また、防災協力に関しては、モンベルがアウトドアで培った経験や知識、用具などを災害時に活用していく。モンベルでは、阪神淡路大震災を契機に発足したボランティア集団「アウトドア義援隊」による災害支援を行っており、相互に連携・協力することとなる。

越前おおの meets mont-bell
めざせ! たんぼの達人 農産物を自分で育てて味わおう! 親子で楽しく参加できる農業体験カリキュラム

平成29年度 **こどもアグリマイスター** 5/14日スタート!

対象 **小学1年生～6年生**
※大野市以外にお住まいの方も参加いただけます。

参加者募集!!

申込方法 裏面の申込用紙に必要事項をご記入の上、(一財)越前おおの農林楽舎まで 直接持参・郵送・FAXのいずれかでお申込みください。

特典 ①参加証(mont-bell商品プレゼント) ②大野市こどもアグリマイスター認定証・収穫米(5圃以上参加された方)

▶体験プログラム紹介 プログラム内容・参加費・定員など、詳しくは裏面をご覧ください。

ステージ 1 達人をめざして 第一歩 5月14日(日) 10時~15時	ステージ 2 田んぼの見回り隊 6月17日(日) 10時~15時	ステージ 3 全身で里山体験! 宿泊体験 in 青少年自然の家 7月28日(金)~29日(土)	ステージ 4 秋を満喫! 収穫祭 9月16日(日) 10時~15時
ステージ 5 未来の森づくり& どんぐりクッキー作り 10月9日(月) 10時~15時	ステージ 6 収穫したものを 食べてみよう 10月22日(日) 10時~15時	ステージ 7 新米を販売しよう @愛知県岩倉市 11月12日(日) ※詳しくは後日	ステージ 8 お正月の 準備をしよう 12月9日(日) 10時~15時

私たちがサポートします!

自然の恵みの天才がナビゲートします!
高橋前まよるさん(サイト坂本均さん)

私の育てたとうもろこしはおいしいんですよ!
大藤あきさん

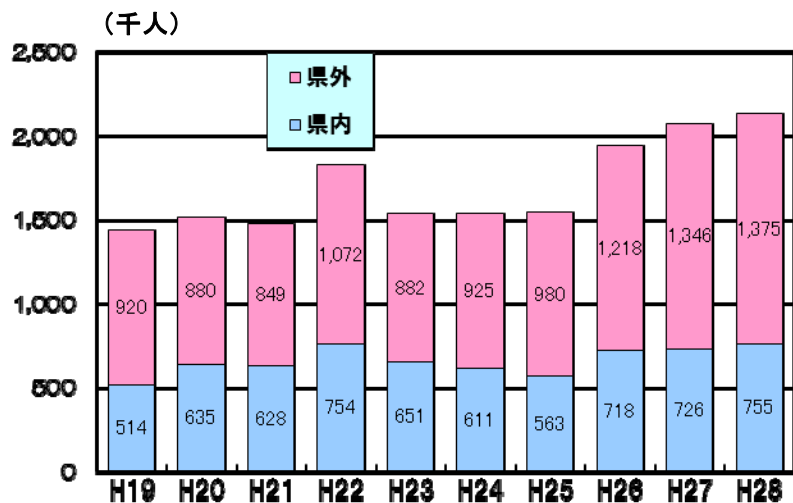
自慢のさつまいもいっぱい食べてみましょう!
村上篤夫さん

主催 一般財団法人 越前おおの農林楽舎 協賛 mont-bell 大野市教育委員会 農林楽舎

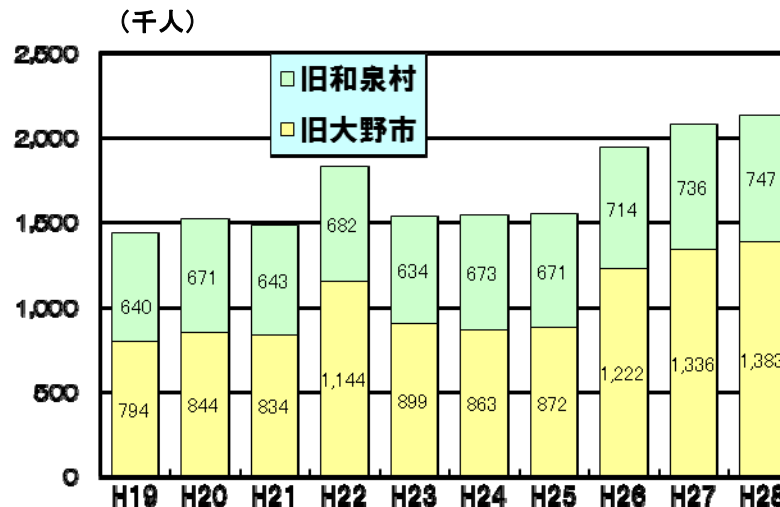
お問合せ 一般財団法人 越前おおの農林楽舎 TEL(0779)66-1141 FAX(0779)66-1142 〒912-0092 福井県大野市大町3-7

【参考資料】大野市の観光動向

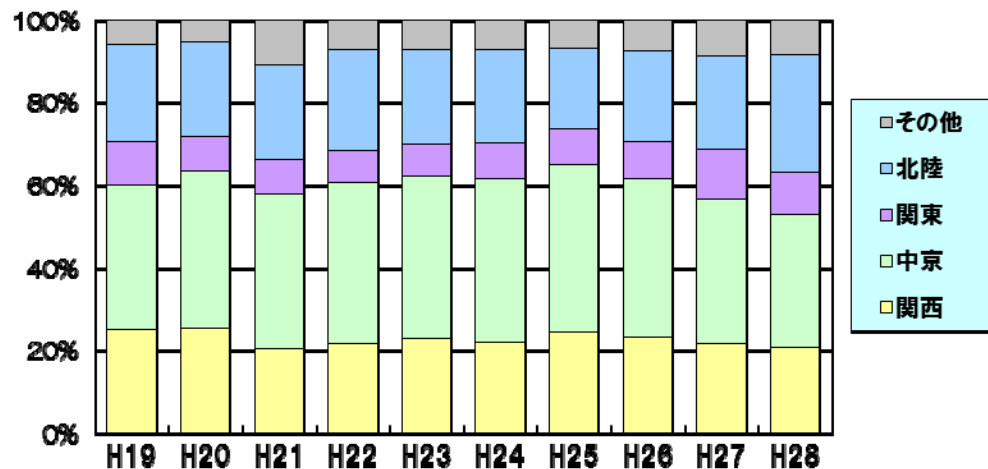
観光客数内訳 (県内・県外)



観光客数内訳 (旧大野市・旧和泉村)



県外観光客発地別内訳



■ 大野市における観光客数は、平成19年以降横ばいとなっていたが、平成22年は越前大野城築城430年祭、平成26年は結の故郷発祥祭の実施効果により増加している。また、天空の城等がメディアにとりあげられた事による知名度向上も大きく影響し、平成27年度には200万人を超える観光客数を記録した。

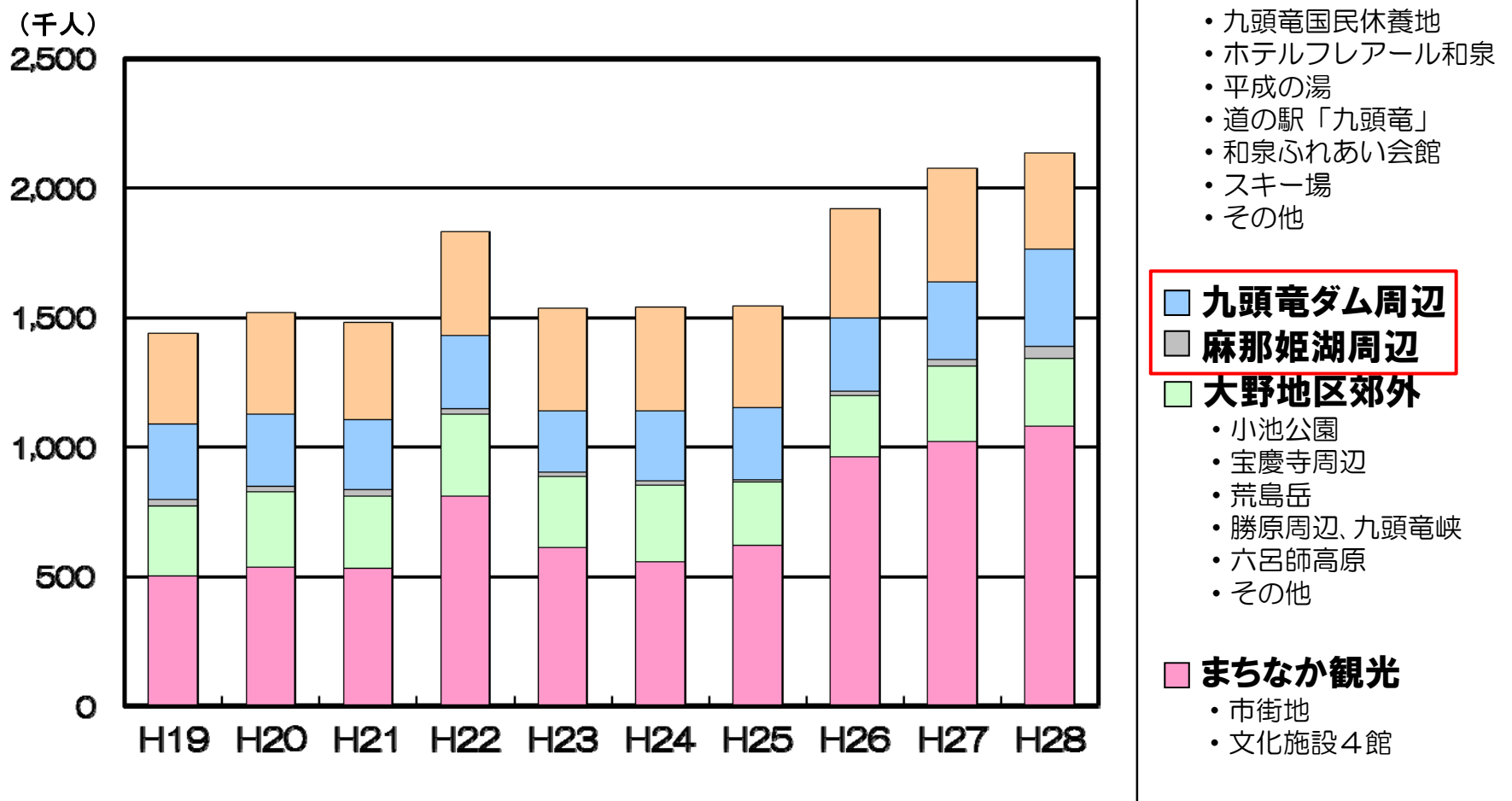
■ 全体の6割強が県外からの観光客であり、県外客のうち中京方面・北陸方面からがそれぞれ約30%、関西方面からが約20%、関東方面からが約10%となっている。

※データ出典：大野市商工観光振興課

【参考資料】大野市における観光地としての真名川ダムと九頭竜ダム

大野市における主要観光地の観光客数

■ 大野市の主要観光地の観光客数のうち、「九頭竜ダム周辺」の占める割合は例年15%程度、「麻那姫湖周辺」の占める割合は1%程度である。



※データ出典：大野市商工観光振興課

2) 活動団体・関係機関の取り組み

①. 九頭龍川クリーンアップ(真名川君が代橋、九頭竜川上流部)

3河川協力団体の呼びかけにより、水源地域活性化の取り組みを展開

- 管内の3つの河川協力団体(ドラゴンリバー交流会、奥越漁業協同組合、大野市漁業協同組合)の呼びかけで、「九頭龍川クリーンアップ大作戦」が開催された。
- 真名川 君が代橋の下広場に約60名が参加し、清掃活動を行った。
- 一時間半程度で、軽トラ2台分のゴミを回収した。
- ゴミ拾い終了後、真名川と下流(福井市・底喰川)の水質検査を行い、河川環境に対する意識を高めた。



■ 清掃状況



■ 回収状況

開催日時:平成29年6月17日(土)
 開催地域:大野市内各所
 【主な参加団体】順不同
 大野市観光協会、一般財団法人水への恩返し財団、北陸電力(株)福井支店、
 電源開発(株)九頭竜電力所、福井県奥越土木事務所、大野市、九頭竜川ダム
 統合管理事務所 他

②. ノーム自然環境教育事務所(奥越前まんまるサイト)



活動の目的

奥越地域の自然・産業資源を媒介して、次世代の地域を担う人材育成を目的としている。また、四季を通して地域の人材・農林業・暮らしや文化を活かした参加体験型エコ・グリーンツーリズムを進めることで、訪れる方々を対象に地域の素晴らしさを体感していただいている。

継続事業

■ ~「小水力キャンプ」環境教育編~

水辺の活動(場所:九頭竜ダム&前坂キャンプ場)

自然エネルギーの利活用への理解を深め、その体験活動を通して、郷土愛を育む。

九頭竜ダム&小水力発電レクチャーと見学

- ・和泉地区にて川遊び
- ・小水力発電機の実地体験
- ・芋洗い水車発電機とPR(寺町万灯会)



■ 地域連携~九頭竜ダム「バス駆除事業お手伝い」~

ダム湖に生息する外来生物「ブラックバス」駆除のお手伝い。

また本活動をFBやHPにてPR。

- ・地域と連携しての自然・環境保全
- ・外来生物駆除の支援



新規事業

■ 教育団体等の受け入れ

教育団体においては、少なくなった水辺の活動を、安全に体験するべく、7月中旬より8月上旬の時期に限定しての受け入れ実施。

- ・川流れ、PFDを装着してプカプカ浮いて流れる
- ・水の中を覗いてドジョウを探す
- ・河原の石で遊ぶ
- ・流れのある川をのぼる



■ 水辺のエコツアー受け入れ準備

数年先に迫っている「中部縦貫道路」「JR北陸新幹線敦賀延伸」に向けて、福井・大野と中京・関東圏との都市間交流の推進準備。

- ・紅葉シーズンの試乗
- ・快適なアクセスの環境整備
- ・通信環境の確認
- ・艇庫について
- ・乗船時間や見どころの確認とPR



◆ 来年度に向けて

- ・中京関東圏向けエコツアー(カヌーツアー)受け入れ準備2年目。
- ・中部縦貫&北陸新幹線開業に向けて、体験活動を進めるプレイヤー(スタッフ)の育成
- ・川で遊び・学び・食べる「川です過ごす一日」フェスティバルのようなものできないか(?)
- ・近隣宿泊施設／旅行会社との連携～体験活動の提案～
- ・新設「道の駅」との連携(?)

③. 「水源地の森づくり」第10回植樹会



概要

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会では、平成18年から水源林の保全・育成、森づくりの意識の向上および上下流の人々の交流と流域連携の促進を目的として、「植樹会」を開催している。

この「植樹会」は、NPO法人ドラゴンリバー交流会の会員がドングリから育てた広葉樹の苗木を、参加者が植樹する。平成18年に植樹した木は約4～5mに成長していた。

第10回となった植樹会は、11月11日(土)に紅葉が美しい真名川ダム上流の笹生川沿いにおいて開催した。当日は、あいにくの肌寒い雨模様となったが、12団体・一般参加者合わせて約60名に参加していただき各自が持ち寄ったスコップでコナラなどの苗木210本の植樹を行った。

また、今年もダム湖の流木処理材を利用して作った堆肥を、「大きく育て」との思いを込めて根元に施した。

- 【開催日】 平成29年11月11日(土)
- 【会場】 真名川ダム上流笹生川沿い(福井県大野市中島)
- 【参加者】 約60名
- 【主催】 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会

■植樹の様子



3) 国土交通省の取り組み

①. 九頭竜ダム湖の特定外来種コクチバス捕獲・駆除



概要

■平成19年に九頭竜川ダム統合管理事務所の調査により、九頭竜湖の右岸側を中心にコクチバスの生息・繁殖が確認され、その後、福井県が主体となり、毎年駆除を行っている。

■今年も、産卵期間中にあたる6月7・8日に、これまで産卵床や成魚が確認された地点を中心に駆除を実施した。参加者は総勢延べ61名

開催日時：平成29年6月7日(水)～8日(木)
実施場所：福井県大野市長野（九頭竜ダム湖）
駆除方法：刺し網、竿釣り、産卵床の破壊
駆除目的：九頭竜ダム湖内の既存の魚類を守るため。
九頭竜川最上流部にあることから、下流への生息域の拡大を防ぐため。
駆除数：7日57匹、8日35匹



■湖を泳ぐコクチバス



■刺し網で捕獲したコクチバス



■駆除状況



■ダイバーによる産卵床の破壊

今回の活動では、新たに陸上からでは発見しにくい産卵床をドローンで空撮にて調査し、その結果を生かして駆除を行った。

ドローンを活用することにより、短時間で広範囲にわたって調査を行うことができ、発見された産卵床は、ダイバーにより破壊した。



■ドローンで撮影した産卵床



■撮影の様子

②. 九頭竜川上流 水生生物調査



概要

水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するため、また住民や子ども達の身近な環境問題への関心を高めるため、水生生物調査を実施した。

参加した子供たちは、九頭竜川と石徹白川の2箇所調査を行い、たくさんの水生生物を見つけた。またパックテストを使用して数値としても水質を確認した。

今回、NHKの取材もあり昼と夕方にニュースで放送された。地元の奥越漁協の協力により、アユのつかみどりも体験し、子供たちは楽しそうに充実した様子だった。



日時	: 平成29年7月24日(月)	9:00~16:30
場所	: 大野市朝日	九頭竜川、石徹白川
参加者	: 和泉小学校	児童11名 保護者7名
主催	: 近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所	



【水中の虫さがし】



【アユのつかみどり体験】



【パックテストで水質測定】



【NHKによるニュース放送】

すべての地点で、『水質階級 I きれいな水』に棲むカワゲラ類、ヘビトンボが確認された。また、大変めずらしい生きた化石といわれる、恐竜時代からほとんど進化していない『ムカシトンボ』の幼虫も1匹発見された。

③. 森と湖に親しむ旬間行事



概要

国民のみなさんが森と湖に親しみ心身をリフレッシュしながら、森林やダム湖の重要性について理解を深めていただくことを目的に、真名川ダムや九頭竜ダム・長野地下発電所の見学会を実施した。

- 【実施内容】 真名川ダム見学会（平成29年7月29日(土)）
九頭竜ダム・長野地下発電所見学会（平成29年7月30日(日)）
- 【主催】 森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
- 【構成機関】 福井森林管理署／福井県／大野市／電源開発(株)／北陸電力(株)／関西電力(株)／大野市漁業協同組合／福井河川国道事務所／九頭竜川ダム統合管理事務所
- 【関連・協賛行事】 第10回もりみずカップ少年サッカー大会（平成29年6月17日(土)、18日(日)）
- 【事前PR】 県内を対象に新聞広告、公式ツイッター、チラシ等で事前PRを実施

7月最後の週末はダムに行こうよ！【国交省九頭竜川ダム統合管理事務所】

■ダム見学会 広報チラシ



■テレビニュース報道 NHK:平成29年7月29日(土)

■公式ツイッター

■新聞広告 (福井新聞 平成29年7月23日(日)22頁)

■Web広告 (中日新聞CHUNICHI Web)

真名川ダム見学会

真名川ダム見学会では、堤体内通路や見学ステージからダム本体や、52mの高さまで噴き上がる噴水を間近に見て、そのスケールの大きさを体感しつつ、パネル展示でダムの構造や機能、役割について説明を行った。真名川ダム見学の様子は、NHKのお昼と夕方のニュースで紹介された。

【開催日】平成29年7月29日(土) 【来場者】約400人

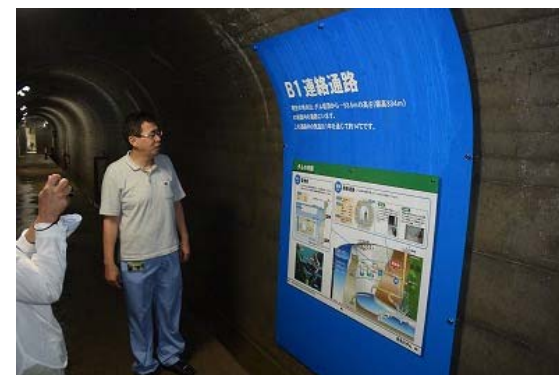
【参加機関】福井森林管理署 / 福井県 / 北陸電力(株) / 福井河川国道事務所・九頭竜川ダム統合管理事務所



■ダムの大きさを体感



■アーチ式ダムを体感



■管理用通路見学



■積み木遊び



■森のマスコット作り



■スマートボールゲーム

真名川ダム見学会



■ パネル展示(福井森林管理署)
美しい森づくりを目指して展示と
森のマスコット作り



■ パネル展示(福井県森づくり課/
福井県土木部砂防防災課)
福井の森とダムについて学ぼう



■ パネル展示(北陸電力)
再生可能エネルギーについて学ぼう



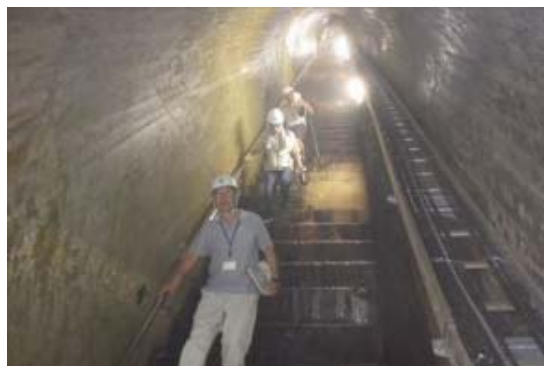
■ パネル展示(国土交通省)
国土交通省の取組について

笹生川ダム見学会

ダム見学会では、ゲートや堤体内などの見学、説明を行った。

【開催日】平成29年7月29日(土) 【来場者】約100人

【開催ダム】笹生川ダム(大野市)



■ 笹生川ダム見学会の様子

九頭竜ダム見学会・長野発電所見学会

九頭竜ダムでは、高低差128m、639段の階段で長野発電所に通じる冬期連絡通路を開放して洪水吐ゲートを間近に見たり、展示館内のパネル展示や建設当時の映像などで、ダムの構造や役割を説明した。水上巡視体験では、湖面からのダムの姿を見学してもらった。

【開催日】平成29年7月30(日)

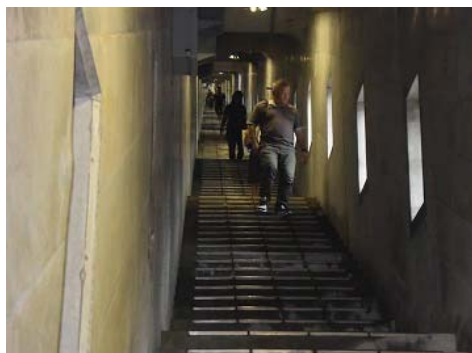
【来場者】九頭竜ダム会場 約500名／長野発電所 約310名

【参加機関】大野市/電源開発(株)/北陸電力(株)/関西電力(株)/九頭竜川ダム統合管理事務所 ほか

■九頭竜ダム会場



■ダム湖見学の様子



■冬期連絡通路の解放



■冬期連絡通路踏破証
(639段の階段を登りきるともらえる)

■長野発電所会場



■長野発電所会場



■地下発電所見学



■模型実験の実演の様子

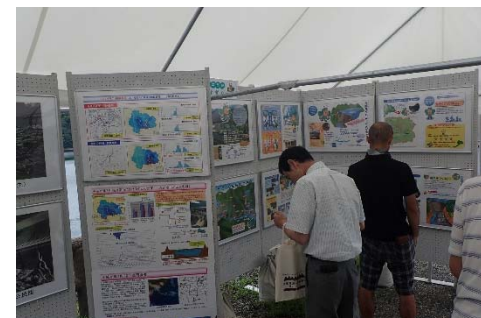
九頭竜ダム見学会・長野発電所見学会



■パネル展示(大野市)



■パネル展示(国土交通省)



■九頭竜湖の流木無料配布



■流木を利用した工作教室



■水上巡視体験



■展示室



■お絵かきコーナー

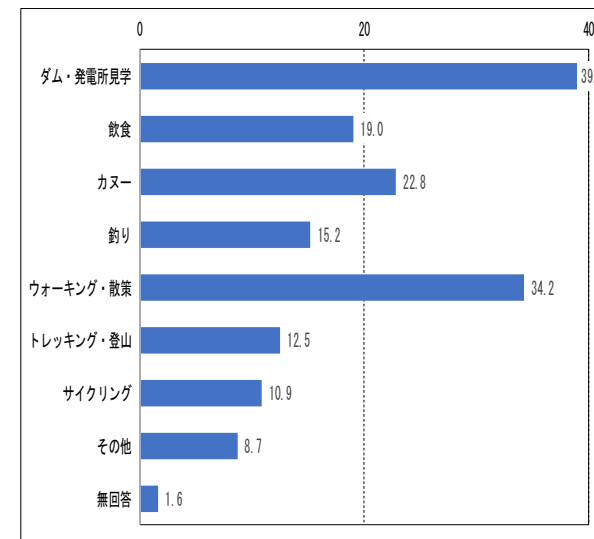
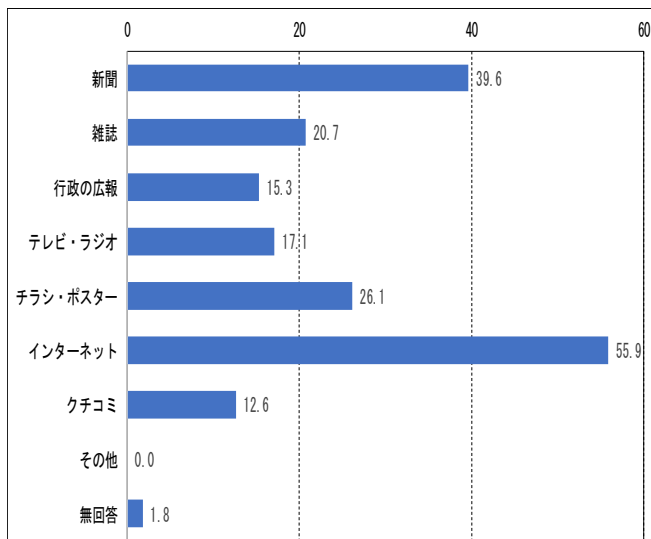
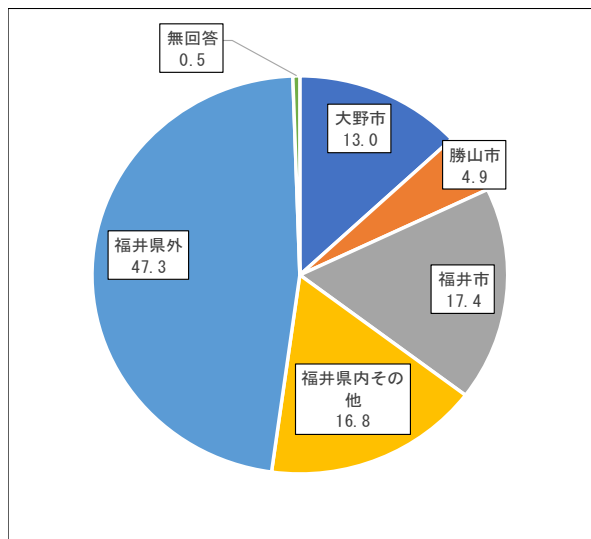


■顔はめパネル

アンケート結果（九頭竜ダム、真名川ダム）

「森と湖に親しむ旬間」行事来場者の動向

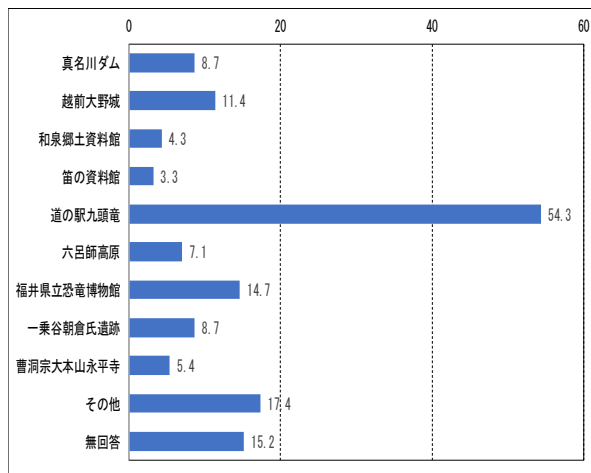
旬間中に各見学会会場でアンケートを実施した。回答者数は真名川ダム111人、九頭竜ダム184人。



〈来訪者〉

九頭竜ダムは、中京圏と繋がる幹線に立地し、福井県外の来訪者が多い。

県外、特に中京圏とのつながりが強い。



〈旅行先や余暇活動の情報を知る手段〉

インターネットが主であるが、近隣の来訪者は新聞、チラシ・ポスターの比率が高い。

情報の周知の手段としてインターネット、県内には新聞も有効である。

〈本イベント以外の立ち寄り先〉

県外からは道の駅九頭竜、恐竜博物館の立ち寄りが多く、県内・福井市は道の駅九頭竜が目立つ。中部地方からは越前大野城と永平寺が、近畿以西や関東からは真名川ダムや恐竜博物館が目立つ。

立ち寄り先としては、県内からは越前大野城、県外からは越前大野城ほか恐竜博物館、永平寺、朝倉氏遺跡等にも幅広く立ち寄っている。

〈今後の体験希望項目〉

ウォーキングやカヌー、飲食の人気が高い。50代以上でウォーキングやトレッキングの人気が高い。

県外の人、50代以上で、ウォーキングやトレッキング、40代でカヌーのニーズが高い。

分析結果

今年度は、ダムに立ち寄る人がどんな観光行動をして、どんな媒体から情報を得て、どんなニーズがあるのかを調べた。

その結果、中京圏とのつながりが強く、ウォーキングやカヌー等の体験型のニーズが高いこと、越前大野城や恐竜博物館に立ち寄っていることがわかった。

④. 「森と湖に親しむ旬間」協賛行事

もりみずカップ少年サッカー大会

九頭竜川ダム統合管理事務所では、真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会を通じて、多様な活動主体と協働して水源地域の活性化に取り組んでいる。

「森と湖に親しむ旬間」の協賛行事として、九頭竜川の水源地から下流まで16チームの子ども達が参加する「もりみずカップ少年サッカー大会」が開催された。

【開催日】 平成29年6月17日(土)・18日(日)

【主催】 もりみずカップ実行委員会/
フェンテ大野フットボールクラブ

【会場】 大野市真名川憩いの島サッカー場

【協賛】 九頭竜川ダム統合管理事務所/大野市

【後援】 福井新聞社/越前おおの農林楽舎



■事務所長の祝辞



■試合の様様

◆評価・課題等◆

この少年サッカー大会は、平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始ったもので、今年度で第10回大会となる。

参加チーム数は昨年度と同様16チームが参加しており、そのうちの2チームは岐阜県郡上市からの参加である。

九頭竜川の水源地から下流まで九頭竜川のもたらず豊かな自然を愛する心・感謝する心を育てながら参加チーム相互の親善を深める大会となっている。

参加チームが増えながら継続的に実施できており、上下流域チームの参加により地域間の交流に広がりを見せている。

⑤. 平成29年度「日帰り留学」



活動概要

日帰り留学は、福井豪雨から10年の節目となる平成26年より「水源地域ビジョン」の取り組みの一環として実施している。

上下流域の子ども達(親子)に短期留学をしてもらい、山林・里山・田園地域での自然体験等を通して上下流域間の交流と連携の強化、防災意識の向上を目的とした行事である。

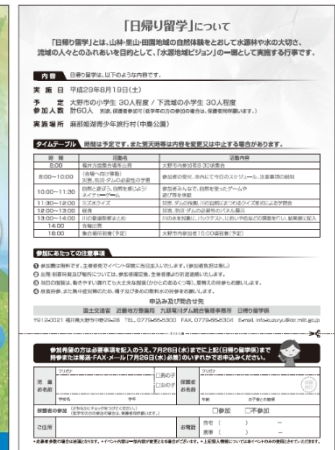
ネイチャーゲームでゲーム感覚で自然とふれあったり、川の健康診断で水の大切さ等を学んだり、「ミズ水クイズ」で災害のことやダム的重要性を学んでもらった。

【開催日】平成29年8月19日(土)

【会場】麻那姫湖青少年旅行村(中島公園)

【申し込み人数】14名

【参加団体】大野市漁業協同組合/九頭竜川ダム統合管理事務所



■ 日帰り留学の案内チラシ



《ネイチャーゲーム》

自然の中に隠れた色々なものを五感で感じ自然と触れ合った。



《川の健康診断》

川の生物を採取して、川の水がきれいかわかを調べた。



《ミズ水クイズ》

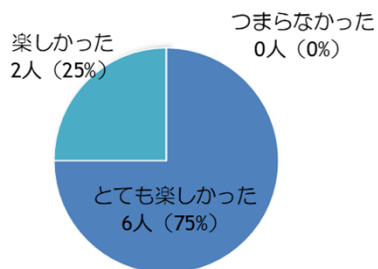
パネルをヒントにクイズ形式で、災害、防災・ダムの役割などについて学んだ。

アンケート結果

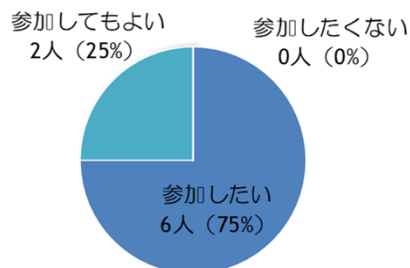
日帰り留学参加者へのアンケート結果

	子ども	保護者	合計
当日参加者数	9名	5名	14名
アンケート回答数	8名	0名	8名

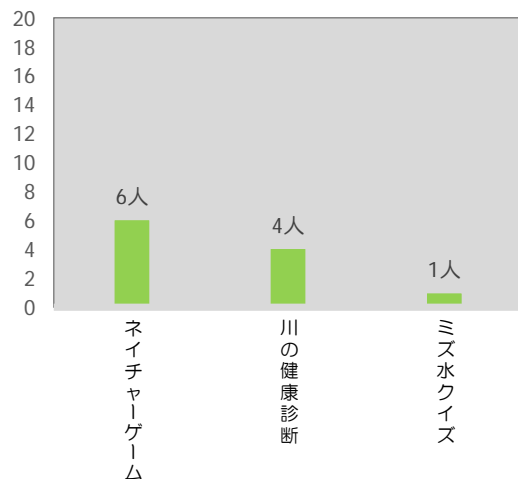
日帰り留学に参加してみてもうでしたか？



このような機会があれば参加したいですか？



とても楽しかった または楽しかった人は次のどれがよかったですか？



■参加してみて良かったこと、学んだことなど

- ・みんなで楽しくがくしゅうできて、よかったです。また来年もさんかしたいです。
- ・ダムについて、よく分かった。いろんな自然とふれ合えて楽しかった。
- ・すごく楽しかったので、らいねん、さらいねんもしたいです。
- ・ダムの事について学びました。
- ・川の健康診断がたのしかったし、川に入ったりしたのできもちよかったです。

◆評価・課題等◆

今年の「日帰り留学」は、直前にキャンセルが相次ぎ少人数での実施となったが、全般的に非常に好評であった。自然と触れ合う機会の少なくなった昨今において、普段なかなか体験することの出来ない自然体験を通しての交流は、貴重な連携強化の促進ならびに人材育成の場となった。

今回いただいた貴重な意見を活かし、今後も更に多くの方に参加していただける取り組みを継続して実施していきたい。

⑥. 九頭竜新緑まつり・紅葉まつりでのパネル展示



九頭竜新緑まつり・紅葉まつりの概要

大野市内で生産される農林水産物や特産品、旬の味覚などを提供する「食の市場」と体験型・参加型のイベントを実施することにより、文化・工芸の継承を促し、交流人口の増加と地域の活性化を図る事を目的に、毎年、春に新緑まつり、秋に紅葉まつりを開催している。

【主催】大野市/九頭竜まつり実行委員会
【共催】(一社)大野市観光協会/福井新聞社
【後援】(公社)福井県観光連盟/
JR西日本福井地域鉄道部/
NHK福井放送局/FBC福井放送/
福井テレビ/FM福井
【会場】九頭竜国民休養地(大野市角野)

■第31回九頭竜新緑まつり

【日時】平成29年5月20日(土)・21日(日)

【内容】新緑ステージ、新緑市場(特産品の販売)、
カヌー体験教室、饅頭まき、化石発掘体験、
ふるまい大鍋など

【入込み人数】約25,500人



■カヌー体験



■化石発掘体験

■第38回九頭竜紅葉まつり

【日時】平成29年10月28日(土)・29日(日)

【内容】紅葉ステージ、紅葉市場(飲食広場、
特産品の販売、トロッコ列車乗車体験、
つり堀、木工工作コーナーなど

【入込み人数】約36,000人



■紅葉ステージ



■紅葉市場

新緑まつり・紅葉まつりでの九頭竜川ダム統合管理事務所の取り組み

九頭竜ダム・真名川ダムの概要をはじめ、九頭竜ダム湖環境保全の取り組みや福井県内で実施されてきた公共事業によるストック効果などの紹介、伊勢湾台風(昭和34年9月)や奥越豪雨(昭和40年9月)による当時の福井市・大野市内の被害状況の紹介などを行った。
また、九頭竜ダムで発生した流木の無料配布を行った。



■パネル内容の説明



■流木の無料配布

新緑まつり



■パネル内容の閲覧・説明



■流木の無料配布

紅葉まつり

◆評価・課題等◆

展示パネルの説明に興味深く真剣に聞き入る方が多く、近年頻発している風水害への関心が益々高まっていると感じられ、ダムの役割や必要性を再認識して頂くとともに、防災・減災への意識の向上を図ることができた。

⑦. 防災パネル展

概要

真名川ダム建設の契機となった奥越豪雨(昭和40年9月)から50年の節目となった平成27年より、水源地域ビジョンの取り組みの一環として実施している。

福井駅前のアオッサ(福井市手寄) 1階アトリウムにおいて、平成30年1月12日～1月17日「防災パネル展」を開催した。このパネル展は、大きな被害をもたらす台風や地震などへの防災・減災への意識向上を目的として実施した。福井駅前のバスターミナルに接しているため、アオッサ利用者や休憩見学者ほかバス待ちの見学者も目立っていた。奥越豪雨による旧西谷村の災害などの貴重な過去の災害記録、国土交通省の近年の東日本大震災等の災害対応状況、ダムの役割などの紹介を行った。

期間中は、見学者にアンケートを行い、必要に応じ解説を行った。



■ 会場の様子



■ 見学者への解説の様子

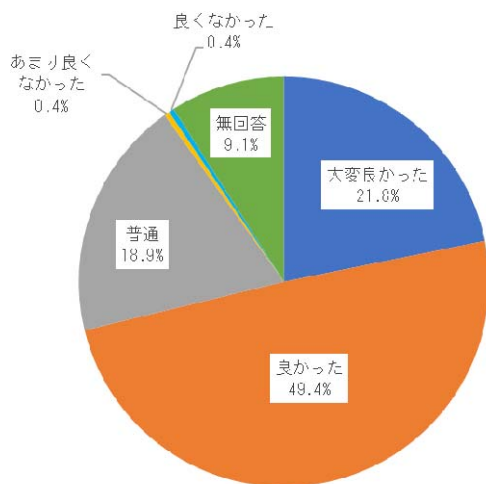


■ アンケート回答の様子

アンケート結果（防災パネル展）

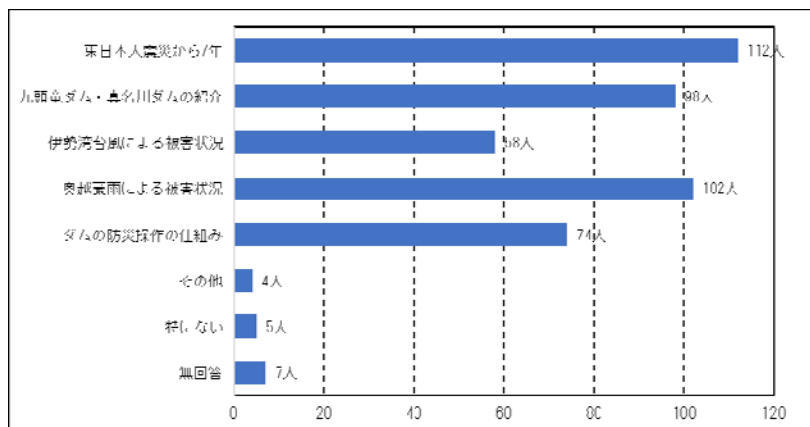
防災パネル展見学者の動向

防災パネル展への来場者は、約500名で、約半分の243人にアンケートを実施した。



<感想>

「大変良かった」「良かった」の回答が回答者の7割であり、自由回答からも防災に対する意識が高まったことがうかがえる。



<展示内容>

パネルの数が多く写真やわかりやすい東日本大震災、奥越豪雨の支持が多かった。九頭竜ダム・真名川ダムの紹介も支持を得ている

<自由記入>

- ・奥越豪雨や昔の災害を思い出し、改めて災害のこわさを感じた(70代男性)
- ・当時の洪水の写真が多く掲載していて、被害の大きさを知ることができてよかった(20代女性)
- ・ダムの目的や役割について知る機会が普段はないが、今回分かりやすいパネルにまとめられていて理解が早かった(50代女性)
- ・大野で生まれ育ったので当時の状況が少しでも写真で見れてとてもよかった。(40代男性)
- ・あまり見る機会のない写真などの掲示によって、関心を持つきっかけとなりました。(40代女性)
- ・河川整備が色々な地域の発展に役立っていると知って驚いた(20代男性)
- ・ダムの説明は一般の人には興味がないと思われ、もう一工夫が必要と感じた(60代男性)
- ・防災パネル展開催していることをもっとPRしてください(60代女性)

◆評価・課題等◆

過去の災害記憶を思い返す方や、近年頻発している風水害や地震災害への関心の高まりからか、幅広い年齢層の方に足を止めて熱心にご覧いただいた。

過去の災害を風化させないとともに、いつ起こるかわからない災害に備えてもらうため、継続して実施することが期待されている。

⑧. ダム湖周辺の紅葉情報提供



概要

真名川ダム(麻那姫湖)、九頭竜ダム(九頭竜湖)周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、『紅葉情報』として毎週ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供するもので、昨年に引き続いて実施した。

紅葉の時期には、大野市公式HPからもリンクされていた。

【期間】平成29年10月11日(水)～12月1日(金)

【URL】九頭竜川ダム統管理事務所

<http://www.kkr.mlit.go.jp/kuzuryu>

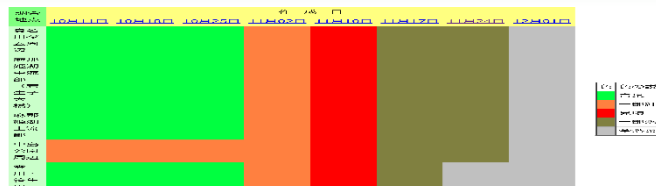
国土交通省 九頭竜川ダム統管理事務所 @mlit_kuzur... · 2017年10月26日
 【真名川ダム・九頭竜ダム】
 両ダム周辺では徐々に紅葉がひろがっています。
 週末の10月28日、29日は『九頭竜 紅葉まつり』が開催されます。
 当事務所もブースを設置して職員が広報していますので、ぜひ立ち寄りください。



5 10

■ツイッターでの情報提供

真名川ダム（麻那姫湖）周辺



■真名川ダム周辺(下流部)



■雲川(国管理区間上流端)



■真名川ダム周辺の調査地点

九頭竜ダム（九頭竜湖）周辺

今週のおすすめ

九頭竜湖周辺で見かけた、おすすめの紅葉写真を紹介します。
今週も箱ヶ瀬橋近くで見つけた紅葉です。
今年は九頭竜湖の水が多く、水面が木々の近くまで来ている所もいくつかあります。
水面に映る紅葉を楽しめるのも今のうちかもしれません。
撮影場所を知りたい！という方は、九頭竜ダム管理支所に
掲示していますので見に来て下さいね。



■九頭竜ダム周辺の調査地点

調査地点	作成日							
	10月11日	10月18日	10月25日	11月02日	11月10日	11月17日	11月24日	
九頭竜ダム周辺	青葉	一部紅葉	見頃	見頃	一部紅葉	一部紅葉	全落葉	
九頭竜湖中流部	青葉	一部紅葉	見頃	見頃	一部紅葉	一部紅葉	全落葉	
箱ヶ瀬橋付近	青葉	一部紅葉	見頃	見頃	一部紅葉	一部紅葉	全落葉	
九頭竜湖上流部	一部紅葉	見頃	見頃	一部紅葉	一部紅葉	全落葉	全落葉	

色	色の説明
青	青葉
赤	一部紅葉
黄	見頃
緑	一部落葉
白	全落葉



■ダム下流側
(ダム下流側国道沿い展望台より撮影)



■管理支所周辺
(管理支玄関より周辺(ダム右岸側)を撮影)



■箱ヶ瀬橋下流
(箱ヶ瀬橋上から下流側を撮影)

◆評価・課題等◆

現地に行かないとわからない紅葉情報を提供することで、紅葉狩りを楽しんでもらうとともにダムに関心をもってもらうきっかけとなることが期待できる。ツイッターでは紅葉情報のほか、その時々話題を提供しており、今後も継続的な情報発信を行っていききたい。

⑨. 九頭竜ダム展示室

概要

平成19年4月より、ダムの役割や状況など、ダムに関する展示を行っている。

【場 所】 九頭竜ダム管理支所 1F

【開館時間】 9:30～16:30(平日・休日を問わず開館)

【展示内容】

- ダムコーナー: 九頭竜ダム貯水池の航空写真と九頭竜湖についてのパネルを展示
- 災害情報: 福井豪雨などでの被害状況の写真等を展示
- ビデオ上映: 九頭竜ダムを建設した様子についてのビデオ(約25分)を上映



■ ダムコーナー



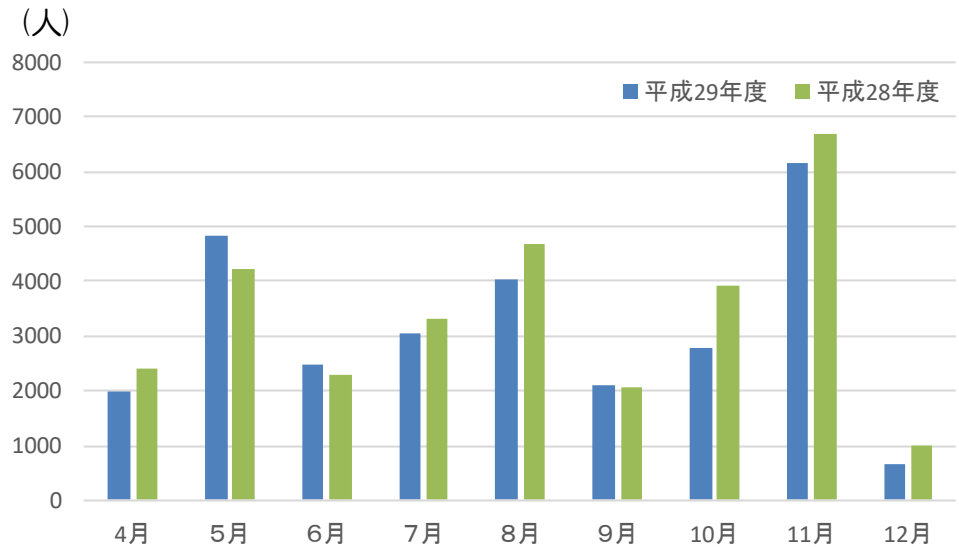
■ 災害情報コーナー



■ ビデオ上映

【九頭竜ダム展示室 入場者数】

- 集計期間: 平成29年4月～29年12月
- 入場者数: 延べ28,138人
- 月平均: 約3,126人 ■ 日平均: 約102人



◆ 評価・課題等 ◆

昨年度の4月～12月の月平均入場者数は3,404人であり、今年度の入場者は月あたりで約300人減っている。

年間の入場者数の推移をみると、ゴールデンウィークがある5月、夏休み中の8月、紅葉シーズンの10～11月に入場者数が多くなっている。夏以降前年に比べて入場者数が減っており、展示内容について見直しが有効と考えられる。

⑩. ダムカードの配布

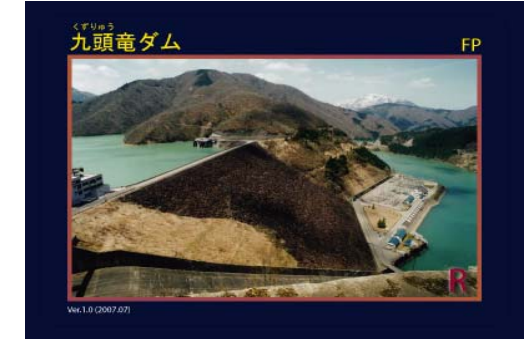
概要

ダムのことをより知っていただくため、全国の国土交通省や水資源機構などが管理しているダムで、統一規格のカードを配布している。

- 平成19年度の「森と湖に親しむ旬間」より、全国111のダムで配布開始
- ダムや周辺施設のみで配布
- 全国统一規格で基本的な情報からマニアックな情報まで掲載



真名川ダム



九頭竜ダム

■真名川ダム・九頭竜ダムでの配布状況

	真名川ダム	九頭竜ダム
配布場所	真名川ダム管理支所	九頭竜ダム管理支所
配布時間	9:00～17:00(土・日・祝日含む)	9:00～17:00(土・日・祝日含む)
配布枚数 (平成29年4月～12月)	2,149枚 (平成19年度からの累計:14,768枚)	9,027枚 (平成19年度からの累計:38,870枚)

◆評価・課題等◆

ダムカードの配布は、アクセスがしやすい九頭竜ダムが真名川ダムの約4倍配布されている。近年ダムカードの人気の全国的に高まっている。

⑪. 流木の有効活用

概要

ゲート操作などの支障とならないようにダム湖に流れ込んできた流木を回収し、森と湖に親しむ旬間、九頭竜新緑・紅葉まつりなどにおいて、一般の方へ流木や流木から作った堆肥等を配布している。

堆肥の活用：「越前おおのエコフィールド」森林(もり)づくり活動に提供
チップの活用：防草用のマルチング材等として使用を予定



■ 流木配布(新緑まつり、紅葉まつり、真名川ダム見学会、九頭竜ダム見学会)

■ 堆肥の配布(真名川ダム見学会)

◆評価・課題等◆

森と湖に親しむ旬間、九頭竜新緑・紅葉まつりなどにおける、本来廃棄されている流木や流木からつくった堆肥の配布は好評であり、流木の有効利用として今後も継続したいと考えている。

⑫. 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンHP更新状況



概要

住民や各関係者等に広く水源ビジョンを認知してもらうため、ホームページ等による水源地域情報の発信、関係機関ホームページとの相互協力による情報提供の充実を進めている。 ※1.更新日はH29.3.10時点で確認

■ホームページ	■更新日	■リンク先	■委員会構成機関ホームページ	■更新日
真名川ダム・ 九頭竜川ダム 水源地域ビジョン	H30.1.26	委員会メンバー	委員	
		大野市観光協会	大野市区長連合会	-
		大野市漁業協同組合	真名川土地改良区連合	-
		大野商工会議所	大野市観光協会	H30. 3. 3
		大野青年会議所	九頭竜森林組合	不明
		NPOドラゴンリバー交流会	大野市連合ふわ女性会	-
		北陸電力	大野商工会議所	H30. 3. 6
		電源開発株式会社	公益社団法人大野青年会議所	H30. 2. 20
		福井市	NPO OASIS協会	H24. 7. 9
		福井県	一般財団法人水への恩返し財団	大野市HP内 H28. 9. 1
		近畿中国森林管理局福井森林管理署	NPOドラゴンリバー交流会	H30. 2. 21
		近畿地方整備局河川管理課	奥越漁業協同組合	H29. 11. 30
		近畿地方整備局福井河川国道事務所	大野市漁業協同組合	H30. 2. 5
		NPO OASIS協会	北陸電力株式会社福井支店	北陸電力HP H30. 3. 2
		九頭竜森林組合	電源開発株式会社九頭竜電力所	電源開発株式会社HP H30. 3. 1
		大野市	福井市建設部	H30. 3. 6
		九頭竜川ダム統合管理事務所	大野市教育委員会	大野市HP内 H28. 9. 16
		地域活動団体等	福井県河川課	福井県HP内 H30. 3. 2
		大野の水を考える会	福井県奥越土木事務所	福井県HP内 H30. 3. 6
		越前大野もてなし隊	福井県奥越農林総合事務所	福井県HP内 H30. 3. 6
		越前おおの農林楽舎	近畿中国森林管理局福井森林管理署	近畿中国森林管理局HP内 H30. 3. 1
		奥越前まんまるサイト	近畿地方整備局河川管理課	近畿地方整備局HP内 H30. 3. 2
		ノーム自然環境教育事務所	福井河川国道事務所	H30. 3. 2
		里山銀杏峰（げんなんぼう）を愛する会	大野市	H30. 3. 6
		平成大野屋	九頭竜川ダム統合管理事務所	H30. 3. 2
		観光ボランティアガイド大野	関係団体	
		※大野市観光協会へリンク	九頭竜川中部漁業協同組合	H30. 2. 27
			ノーム自然環境教育事務所	奥越前まんまるサイト H30. 3. 6
			真名川水辺の楽校ピオフレンズ	-

※更新日はH30.03.07時点で確認

※更新日が明確でない場合は、お知らせ等の最新情報掲載日とする

⑬. 九頭竜ダム ダムカード更新

ダムカードの写真撮影、選定

九頭竜ダムでは平成30年に管理開始50周年を迎える。この節目にあたりダムカード表面の写真を更新することとなった。ダムカードの写真の更新は通常あまり行われず、10年程度は同じ写真を使うのが通常である。

今回、写真を更新するにあたり、地元の皆さんの参加により印象的な写真にしたいと考え、和泉小学校の児童及び先生の皆さんの参加による写真撮影と選定を行った。

2017年10月28日の九頭竜紅葉まつりに合わせて撮影会を実施。あいにくの雨ではあったが、ドローンによる写真と動画の撮影を行った。



■ 撮影会の様子



■ 撮影会後に資料館を見学



2018年1月17日に和泉小学校にてダムカード写真の人気投票を開催した。



■ 動画上映の様子



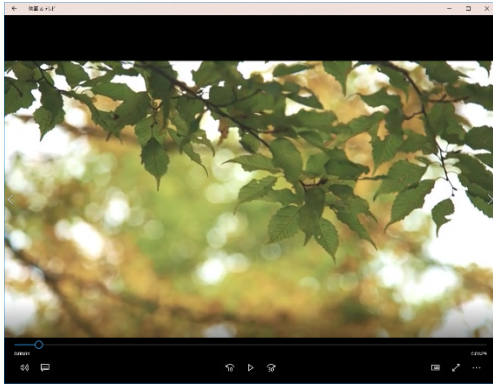
■ 投票会の様子



⑬. 九頭竜ダム ダムカード更新

ダムカードの写真撮影、選定

10月28日撮影映像(約1分間)



4. 水源地域ビジョン意見交換会

① 意見交換会の概要

目的

これまで、真名川ダム・九頭竜ダム水源地ビジョンは個々の活動に留まり、水源地域全体では年一度の推進委員会での活動報告を行うのみでした。平成30年に九頭竜ダムが管理開始50年を迎えることを契機に、「実際にできること」をみなさんと話し合い、できることから実施していくことで、今まで以上に水源地域の活性化を推進していくことが目的です。

意見交換会の概要

第1回 8月7日(月)	『これからの水源地域の姿を描く』 ・いろいろなアイデアを共有する ・地域の将来をイメージする
第2回 9月15日(金)	『ダムを活かした地域づくりへのイメージ出し』 ・見学(第1回で話し合った候補地) ・現実的なイメージづくり、イベント等の企画
第3回 10月11日(水)	『共同で考えたイベントの計画づくり』 ・イベント実施を想定した運営計画づくり
第4回 12月6日(水)	『意見交換会のまとめ』 ・これまでの意見交換会のふりかえり ・重点的な取り組みについて ・JR西日本福井支店長 覚井浩一氏のアドバイス

■参加者名簿

機関名	役職	氏名
大野市区長連合会	会長	河合 英雄
大野市区長連合会	和泉地区区長会長	新井 基衛
大野市観光協会	会長	新井 俊成
九頭竜森林組合	代表理事組合長	馬場 功
大野商工会議所	事務局長	飯田 俊市郎
公益社団法人大野青年会議所	理事長	高野 慎二
NPOドラゴンリバー交流会	理事 (奥越流域会議担当)	米村 輝子
奥越漁業協同組合	代表理事組合長	嶋田 博
大野市漁業協同組合	組合長	此下 美千雄
大野市漁業協同組合	総務部長	三輪 欣也
ノーム自然環境教育事務所	代表	坂本 均
ノーム自然環境教育事務所		坂本 道子
越前おおの農林楽舎	事務局長	脇本 浩嗣
越前おおの農林楽舎	次長	帰山 博子
越前おおの農林楽舎	地域おこし協力隊	大田原 真美
越前おおの農林楽舎	地域おこし協力隊	宍戸 直紀
大野市	湧水再生対策室	山田 明弘

② 意見交換会のまとめ

第1回意見交換会



水 地域資源

- ・湧水文化を伝えたい
- ・昔の川の環境を取り戻したい
- ・川やダムのことを子供たちに伝えたい
- ・大野の水や自然、歴史について多くの人に伝えたい

水辺環境

- ・子どもが気軽に水とふれあえる場と機会を増やしたい
- ・カヌーや水遊びができる場所を増やしたい
- ・ダム見学や貯蔵場所としてダムを活用したい
- ・釣りや散策、憩いの場としてダム湖を活用したい



人づくり

- ・地元の人が地元の資源にもっと気づくべき
- ・新しいイベントよりも、今あるイベントを活用しよう
- ・点はたくさん揃っているので、結びつけることが大切
- ・人づくりが大切。活動を続けるためには収益も必要



第2回意見交換会、現地調査会

＜現地調査場所＞

1. 蝶の水
2. 下半原ふれあい湖畔
3. 穴馬総社、穴馬総社前水辺
4. 九頭竜ダム
5. 国体カヌー会場(パークホテル前)
6. 九頭竜川水際(ホテルフレアール和泉前)
7. 湯上発電所(仏原ダム湖付近)
8. 荒島岳勝原登山口、中部縦貫自動車道工事現場



蝶の水



穴馬総社前水辺



フレアール前



荒島トンネル付近工事現場



カヌー試乗会

実施日:平成29年10月12日(木)10:00~15:00

天候:曇り

参加者:9名

試乗場所 ①九頭竜湖(穴馬総社前)
②九頭竜川(越前下山駅付近)

【九頭竜湖(穴馬総社前)】

- ・園地の水際部の蛇籠護岸が整備されている箇所から乗船。
- ・当日は、波や風も少なく、穏やかな水面でゆったりとカヌーができた。
- ・上流の入江は風の影響も受けにくいいため、初心者にも適する。

【九頭竜川(越前下山駅付近)】

- ・駐車場からカヌーを九頭竜川の河原に運び、溜まりがある区間でカヌーを試乗。
- ・当日は、川の流れも緩やかでゆったりとカヌーができた。
- ・カヌーができる水面がやや狭いため、初心者には良いが、長時間のカヌーには不向き。
- ・ホテルフレアールの駐車場を利用できるが、やや距離があるため、車での移動が必要。



九頭竜湖での試乗



九頭竜川での試乗



第3回意見交換会

■具体的に実施を進めるために

- 具体的に何をするか？やりたいか？誰がするか？
協力できることは？個別シートに書きこみ意見交換。

1. 水辺に親しむ活動

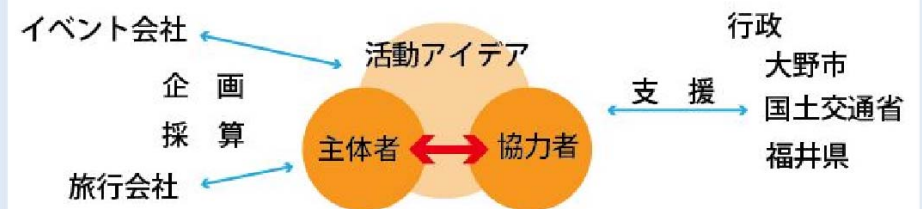
- ・国体カヌー会場跡地の国体後の使い方の要望を。
- ・川の日・七夕にミズベリングを上流部でも開催したい。
- ・七夕に「全国一斉川ながれ」のイベントに皆で参加を。
- ・カヌーは季節を問わず楽しめる、トイレと水場があれば。
- ・フレアール前の河川敷で、温泉、宿泊を伴う川遊び

2. 地域資源を活かす活動

- ・荒島トンネル工事現場が国土交通省「魅せる！現場」。
- ・大野市内をカテゴリー別、目的別に企画して人を募る。
- ・和泉の化石発掘体験センターを取り入れていきたい。
- ・通年と季節ごと、一般客とマニアックな人の組み合わせ
- ・トレッキング・カヌー・キャンプで2泊3日川下りツアー
- ・平成31年に商工会青年部1000人が大野市に来訪。

3. ツアー内容等について

- ・この環境でお金が取れるかの検討、収益性のリサーチ。
- ・中部縦貫道開通がチャンス。ネームバリューを。
- ・一過性にならないような企画が良い。
- ・「ここで何かができる」という定番の企画を定着、認識。
- ・求められるモノ、サービスをきちんとリサーチするべき。
- ・専門家に相談しながら、検討していく必要がある。



第4回意見交換会

■意見交換会のふりかえりとこれからの進め方

- 水源地域ビジョンとしての重点的な取り組みについて意見交換。JR西日本福井支店長の覚井氏にアドバイスを伺った。

1. 水辺に親しむ活動

- ・九頭竜湖のカヌー体験では、非常に乗りやすい。
- ・九頭竜湖はエメラルドのきれいな湖としてもっとPRを。
- ・フレール前の河原は、高速で交通量が減り利用可。
- ・冬場も含め採算性のある取り組みができるとうい。
- ・ミズベリングではお酒も提供。鉄道と連携が良い。

2. 地域資源を活かす活動

- ・九頭竜線の利用、観光列車、既存の列車の活用も
- ・紅葉時電車の連携で観光協会がタクシーや臨時バス。
- ・モンベルの会員を対象に優待企画、お土産店など。
- ・真名川ダムでは監査廊の活用で農林産物の貯蔵実験。
- ・ダムカレーなど、人を呼べる商品の開発や情報発信を。
- ・これからは見る観光ではなく、体験する観光が主流に。

- ・大勢を相手ではなく、少人数で短時間の体験を。
- ・ポイントでなく、いろいろな人が楽しめるルートの提案。
- ・中部縦貫自動車道の開通に向け、人を呼ぶ方法を。

3. これからの進め方

- ・続けていくには組織づくりが必要である。
- ・まずはできるところから始めることが大切。
- ・誰がやるのかというの考えていかなければならない。

4. JR 福井支店長からのアドバイス

- ・福井県全体では観光客数は全国で下から数えるほど。
- ・自然資源もあるがほかの地域と比べて特出してない。
- ・駅から距離があり、バスとタクシーの間の二次交通を。
- ・JRのツアーパンフ等でもPR可能。
- ・できそうなことをやってみて、残せるものを育てていく。



③ 真名川ダム農産物貯蔵

実施日:平成30年1月19日(金)

参加者:越前おおの農林楽舎、国土交通省

目的:年間を通して温度・湿度が安定している真名川ダムの漏水防止のために作られたトンネルを活用して、野菜やコメなどを一時貯蔵する実験を行った。

- ・トンネルは、年間を通して温度10~13度、湿度約90%と安定している。
- ・中部縦貫自動車の市内全線開通や2020年に予定する道の駅開業を念頭に、観光客増を期待して野菜などの地場産品をPRしていく。
- ・貯蔵実験したのは、サトイモ、ネギ、大根、サツマイモ、コメ、麦など
- ・月1回程度経過を観察し、3か月後の品質を見て今後も継続するか検討する。



農産物運び込みの様子

トンネルで農産物貯蔵

地場産農産物の長期間の供給に向け大野市は19日、同市下若生子の真名川ダム敷地内にあるトンネルを活用し、野菜やコメなどを一時貯蔵する実験を始めた。一定の温度、湿度に保たれた環境で特産のサトイモや大根など9種類の作物を約3カ月間保管し、鮮度や味を検証する。(栗原愛)

真名川ダム 大野市が鮮度、味検証

サトイモ、大根など 通年供給目指す

トンネルは昭和50年頃、ダム建設で漏水を防止、有効に活用してもらった。幅2.5メートル、高さ2.7メートル、長さ60メートル、年間を通して温度は約10度、湿度約90%と安定している。現在は資材置き場として、中部縦貫自動車道の越前おおの農林楽舎の職員ら19日、大野市の真名川ダム

市内全線開通や2020年に予定する道の駅開業を念頭に、同市では今後一層の観光客増を期待し、野菜など地場産品をPRしていきたい考え。この日は、市が出資する越前おおの農林楽舎の職員ら19日、同市下若生子の真名川ダム敷地内にあるトンネルを活用し、野菜やコメなどを一時貯蔵する実験を始めた。一定の温度、湿度に保たれた環境で特産のサトイモや大根など9種類の作物を約3カ月間保管し、鮮度や味を検証する。(栗原愛)

職員らがトンネルの一面にサトイモやネギ、大根、サツマイモなどを運び入れた。サトイモは土の中で保管する昔ながらの方法と同様、段ボールにもみ殻と一緒に入れた。新聞紙に包んだ野菜にもみ殻をかぶせ、作業を終えた。今後は職員が月1回ほど足を運び、温度や湿度、野菜の鮮度を確認する。3カ月後の農産物の品質を見て、今後も継続するかどうかを検討するという。サトイモは種芋としての実験も兼ねており、春には貯蔵し終えた種芋を土に植えて芋の出来具合や味の違いを確認する。

越前おおの農林楽舎の土屋久昇主任(59)は「収

5. これからの水源地域ビジョンについて

1) 地域振興に向けた今後の可能性・発展性

今後の進め方(枠組み)

1. 考えるより、できることからやっていく。
2. やる気がある人を中心に企画を進め、取り組みの輪を広げる。
3. ビジョンの取り組みで、一緒にできるものは合同で開催。

○意見交換会で出たアイデア

1. 真名川ダム・荒島トンネル工事現場見学ほか大野市の資源をめぐる「インフラツアー」
2. 九頭竜湖でのカヌー体験ツアー
3. 九頭竜ダム、国民休暇村前国体カヌー会場、フレアール和泉前の水辺などで「ミズベリング」

取り組み案

①大野市と九頭竜川ダム統合管理事務所による日帰り留学の合同開催



■越前おおの環境塾・ガサガサ隊
～川の生き物を探そう～ 大野市

合同開催

■日帰り留学 真名川ダム・
九頭竜ダム水源地域ビジョン



※平成30年度以後「越前おおの環境塾」として合同開催が決定。

②真名川ダム・荒島トンネル工事現場見学ほか 水源地域の資源をめぐる「インフラツアー」



【真名川ダム見学】



【荒島トンネル
工事現場見学】



※真名川ダムと中部縦貫道工事現場見学ツアーが、4月より旅行会社から売り出されます

③九頭竜湖でのカヌー体験ツアー（検討中）



【カヌー体験準備】



【カヌー体験】



④九頭竜ダム、国民休暇村前国体カヌー会場、フレール和泉前の水辺などで 「ミズベリング」(検討中)

【ミズベリングの実施例】ミズベリングIN九頭竜川 七夕のゆうべ(2017年7月7日7時7分)

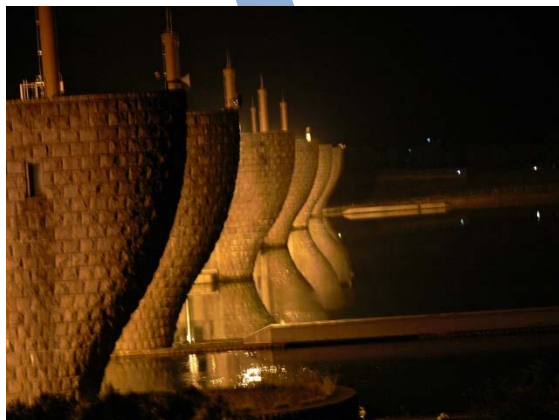
総勢300人が九頭竜川鳴鹿大堰に集結。九州豪雨にあった方々のお気持ちをおもんばかり”乾杯”ではなく”九頭竜川にありがとう”と言う発声で、永平寺町の3蔵元の銘酒を飲み、鮎の塩焼き、サクラマスの葉っぱ寿司を堪能した。



福井県立大学合唱団
トランバッカーノのアカペラ合唱



会場の様子



鳴鹿大堰の
ライトアップの様子



⑤ドラゴンリバー交流会と越前おおのエコフィールドによる植樹会
の合同開催（検討中）



■ドラゴンリバー交流会
「水源地の森づくり」
植樹会

合同開催（検討中）

■越前おおのエコフィールド
森づくりイベント
（平家平植樹区域）



2) 九頭竜ダム管理開始50周年 アニバーサリー

九頭竜ダム管理開始50周年記念企画

- ◆目的 九頭竜ダム管理開始50年という節目の年を迎え、九頭竜ダム事業の推進、ダム管理に尽力、協力いただいた地元の皆様に感謝の意を表す機会として「感謝のつどい」を開催する。
- ◆日時 2018年6月24日(日)
- ◆場所 学びの里『めいりん』講堂(大野市立有終西小学校併設)
- ◆主催 国土交通省 近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
電源開発株式会社 水力発電部 中部支店 九頭竜電力所
- ◆後援 大野市
- ◆参加者 約300名(関係者150名・公募150名) 来賓 大野市長・地元関係者
- ◆内容
 - ・記念講演(名古屋市立大学大学院 浜本 篤史 准教授)
 - ・伝統芸能
 - ・クラシックコンサート